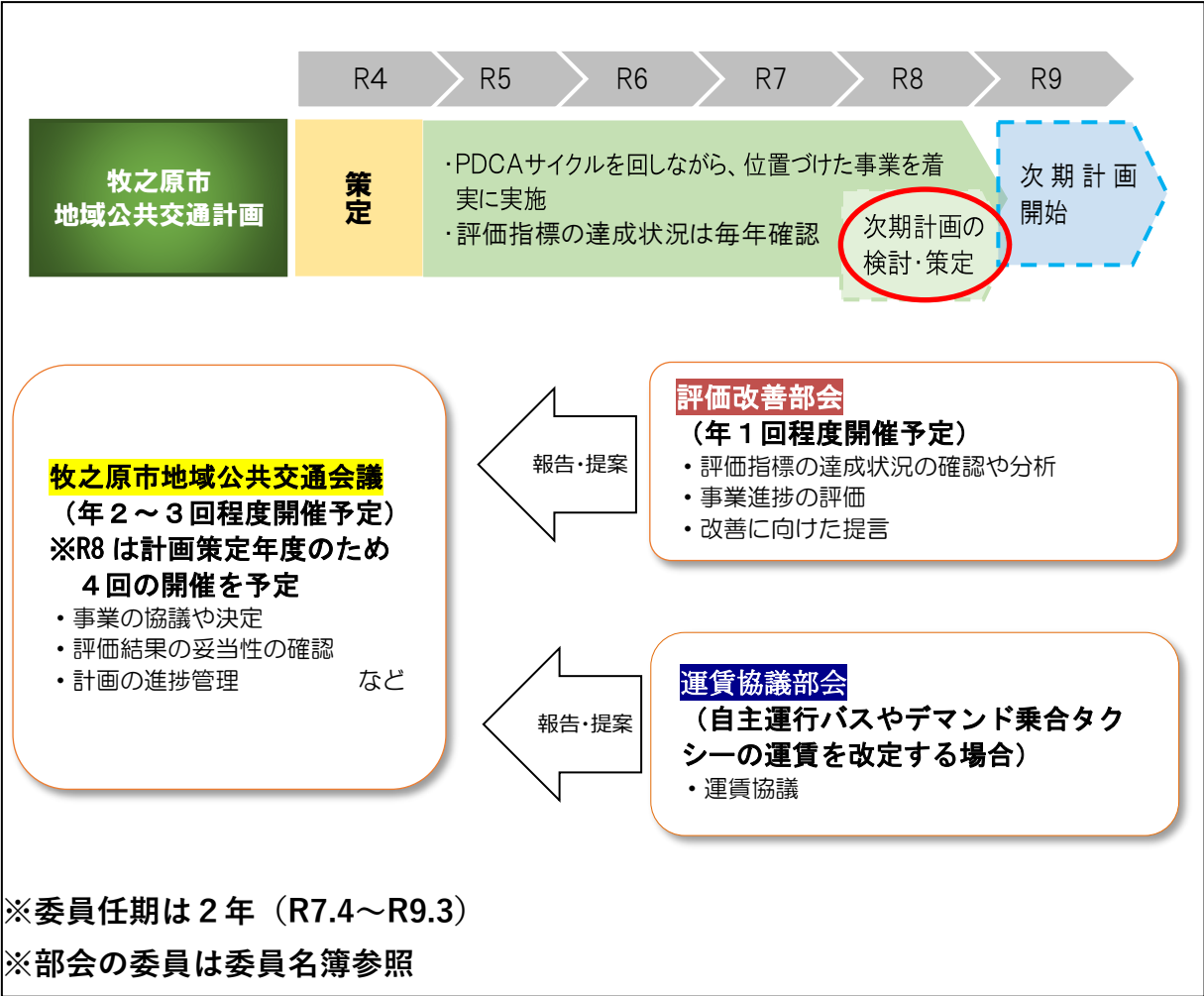


牧之原市地域公共交通会議について

企画政策部地域振興課

1 概要



2 令和8年度会議スケジュール

実施時期	公共交通会議	交通計画策定	その他の協議
令和8年6月22日	第1回	スケジュール説明	デマンド乗合タクシーサービス拡充事業 他
8月	第2回	ニーズ把握調査説明	
10月	評価改善部会	経過報告	R7運行の評価
12月	第3回	計画素案協議	9年度運行の協議
令和9年2月	第4回	最終協議	

公共交通の現状 (令和7年度実績)

令和8年6月

地域振興課

路線図

【乗合バス路線】

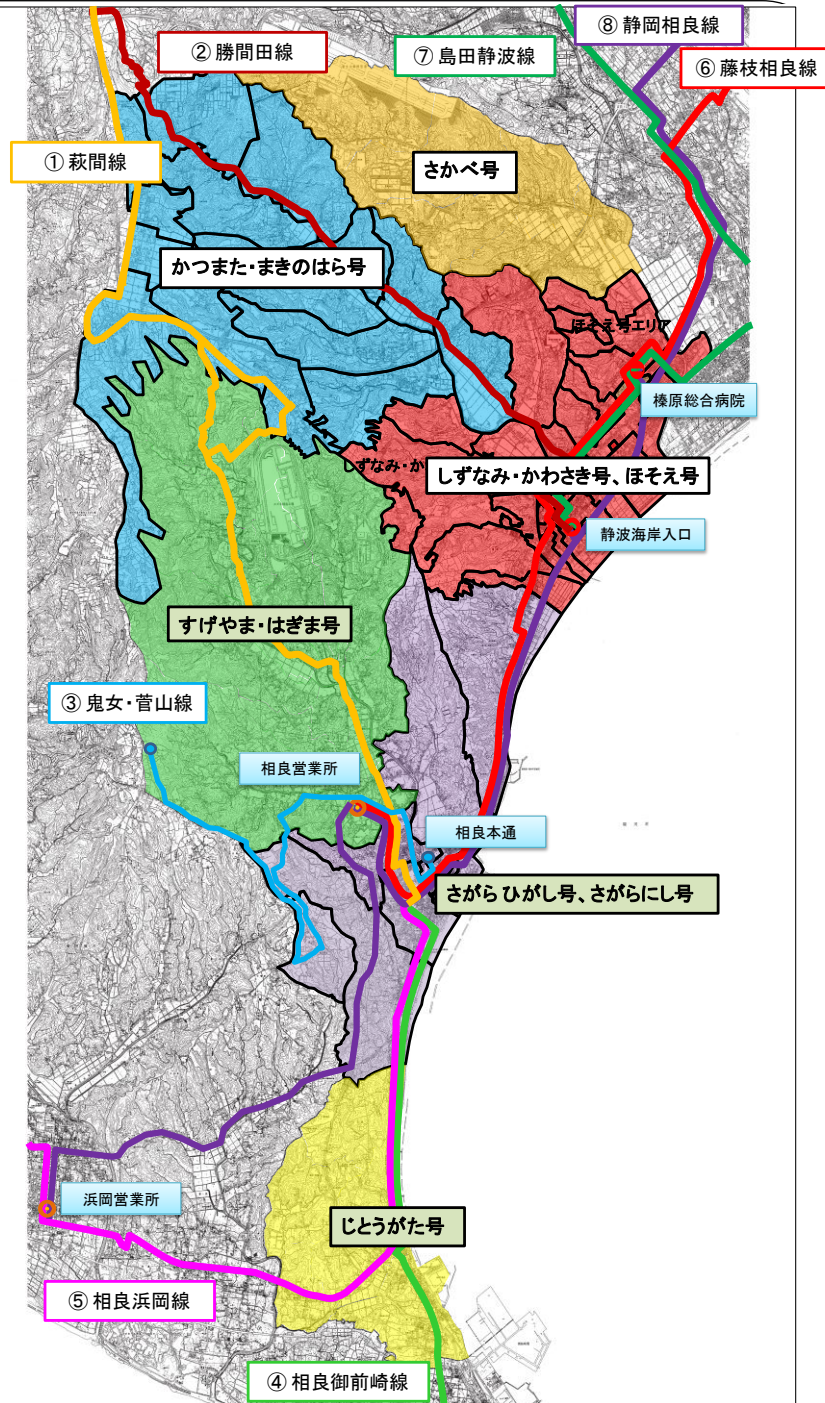
- ・ (特急) 静岡相良線 (紫)
- ・ 藤枝相良線 (赤)
- ・ 島田静波線 (緑)

【自主運行バス路線】

- ・ 萩間線 (黄)
- ・ 勝間田線 (茶)
- ・ 鬼女・菅山線 (青)
- ・ 相良御前崎線 (黄緑)
- ・ 相良浜岡線 (紫)

【デマンド乗合タクシー】

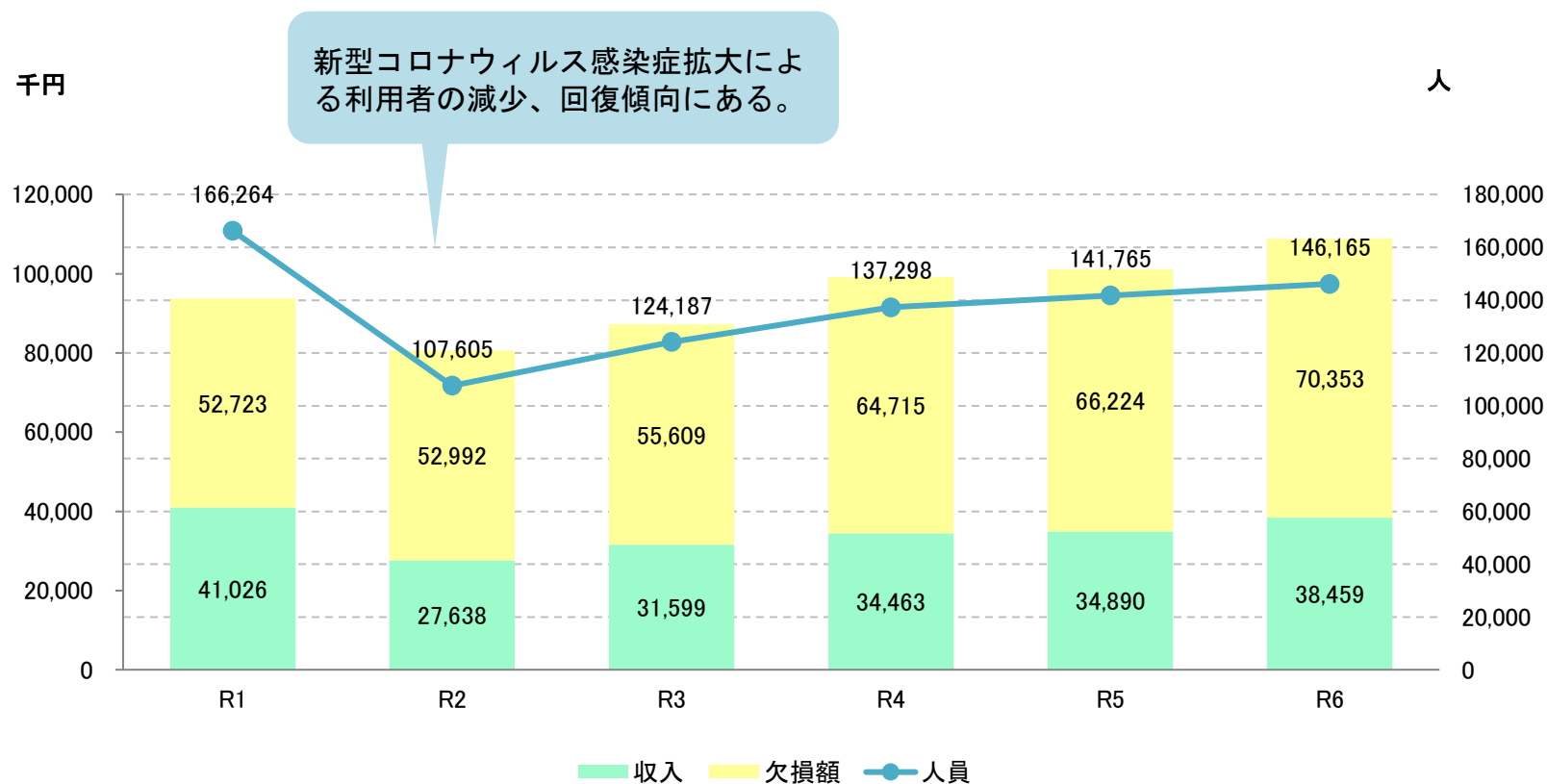
- ・ さかべ号 (令和2年4月から本運行)
- ・ かつまた・まきのほら号 (令和6年4月から統合)
- ・ すげやま・はぎま号 (令和4年4月から本運行)
- ・ じとうがた号 (令和6年4月から本運行)
- ・ しずなみ・かわさき号、ほそえ号 (令和7年4月から本運行)
- ・ さがらひがし号、さがらにし号 (令和7年4月から本運行)



島田静波線

起点	終点	日便数
島田駅 (島田市立総合医療センター)	静波海岸入口	33便:平日 14便:土日祝日

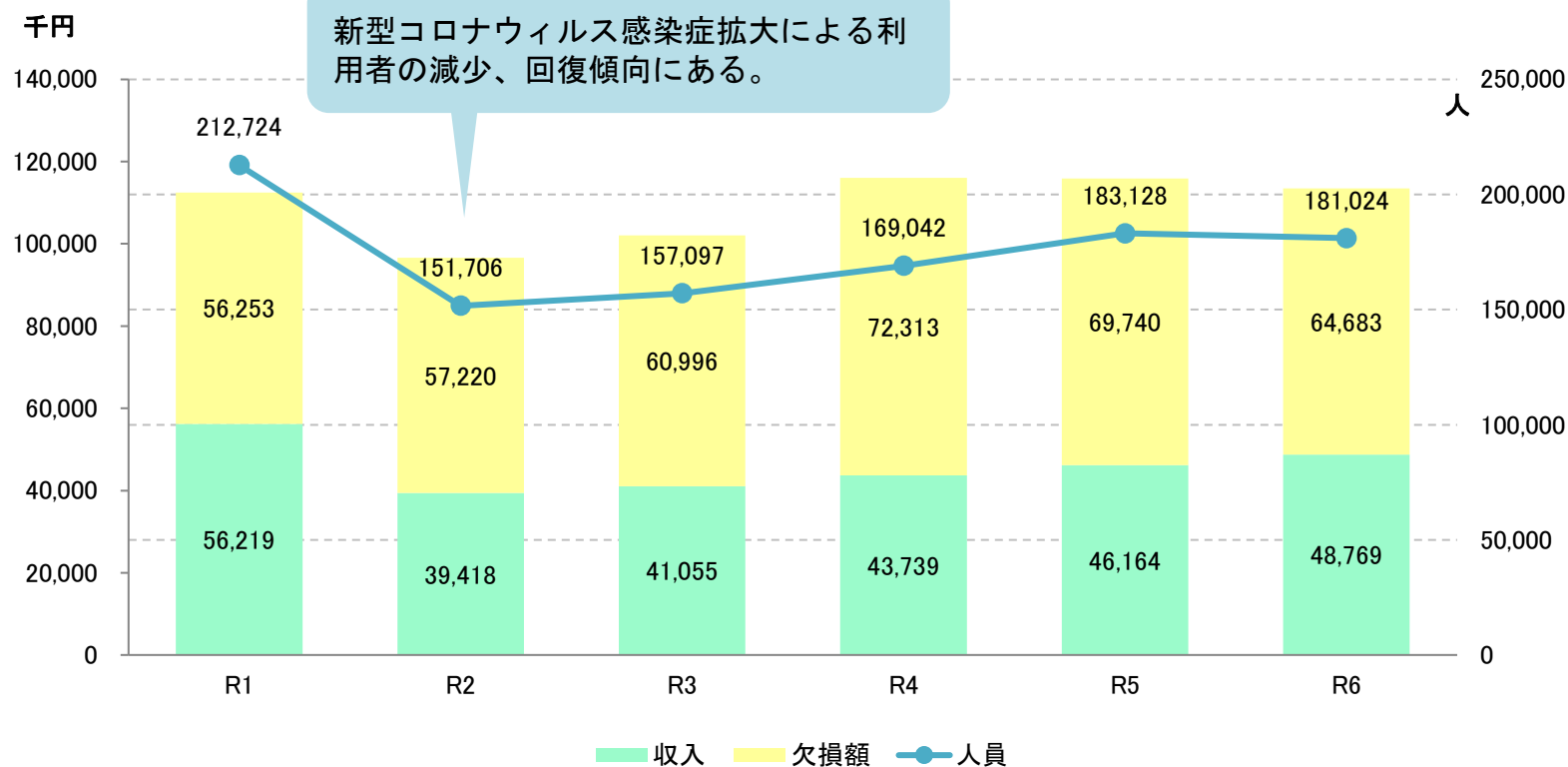
運行経費と乗車人員



藤枝相良線

起点	終点	日便数
藤枝駅南口	相良営業所	24便: 平日 20便: 土日祝日

運行経費と乗車人員



藤枝相良線、島田静波線の補助金額について

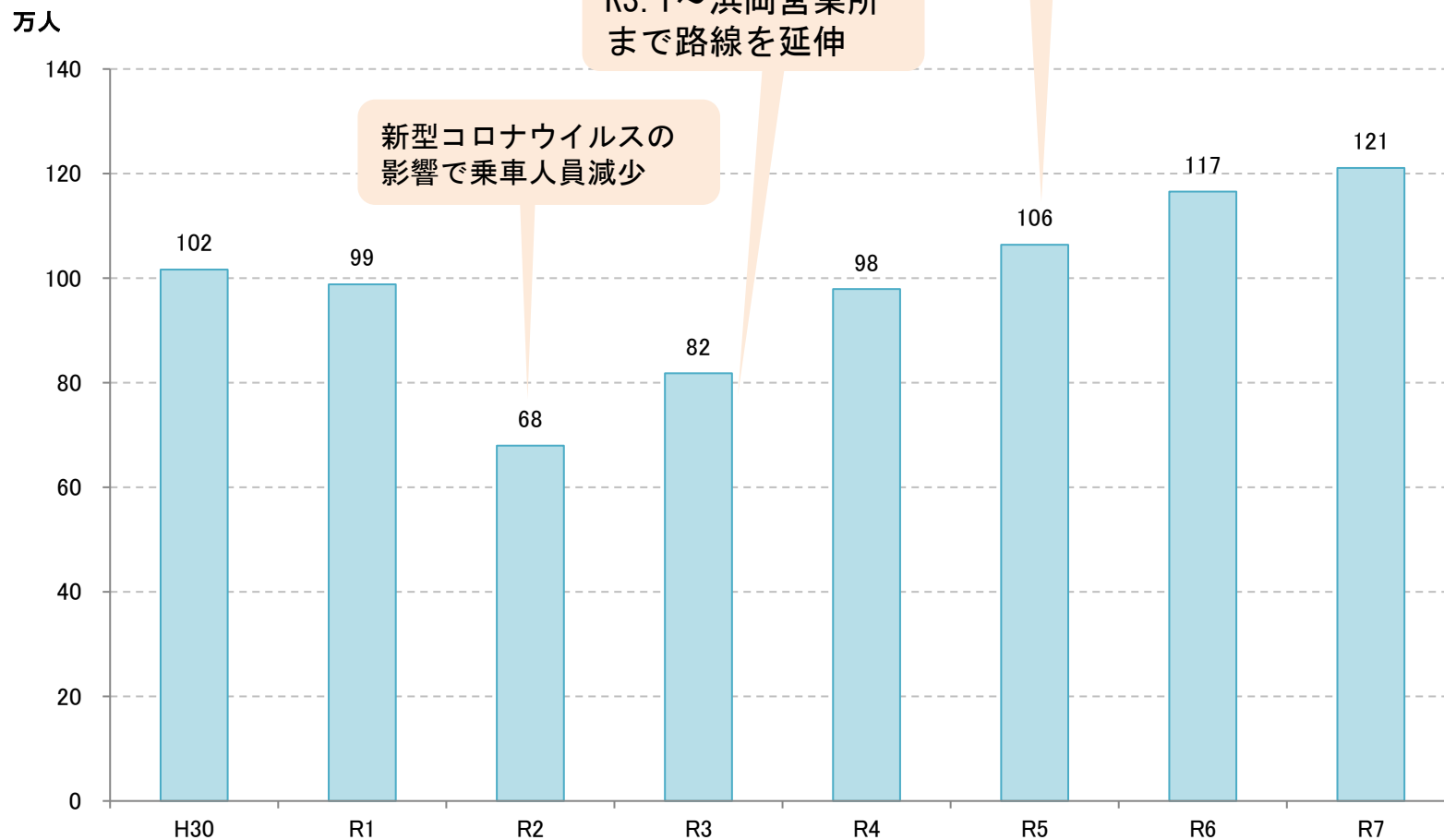
【牧之原市の補助金額】

(円)

	藤枝相良線	島田静波線	計	備考
令和元年度	0	1,387,908	1,387,908	
令和2年度	3,499,111	1,882,333	5,381,444	国補助対象以外も対象
令和3年度	3,812,268	3,316,058	7,128,326	
令和4年度	6,224,877	4,899,840	11,124,717	
令和5年度	14,677,170	3,487,837	18,165,007	
令和6年度	16,687,451	4,030,847	20,718,298	
令和7年度	15,988,794	5,597,128	21,585,922	

特急静岡相良線

乗車人員



自主運行バス

路線名	起点	終点	経路市町(◎は運行主体)
萩間線	相良本通	金谷駅 (金谷小学校)	島田市・菊川市・◎牧之原市
勝間田線	静波海岸入口	金谷駅 (金谷小学校)	島田市・◎牧之原市
鬼女菅山線	菅山原	相良庁舎	牧之原市
相良御前崎線	御前崎海洋センター	相良本通	◎御前崎市・牧之原市
相良浜岡線	御前崎総合病院 (浜岡営業所)	相良本通	◎御前崎市・牧之原市

路線名	1日便数 ()は休日	乗車人数/日 (R7OD調査)	利用客中の 小学生割合	主な停留所
萩間線	21(14)	189	33.3%	金谷駅、金谷小学校、相良本通
勝間田線	10(6)	65	52.3%	金谷駅、金谷小学校、静波海岸入口
鬼女・菅山線	3(0)	23	99.8%	相良庁舎、菅山小学校
相良御前崎線	17(10)	31	9.6%	相良本通、御前崎海洋センター
相良浜岡線	18(11)	75	0%	相良本通、浜岡営業所、御前崎総合病院

※◎印は、委託等の事務を行う市。

自主運行バス乗車人員の推移

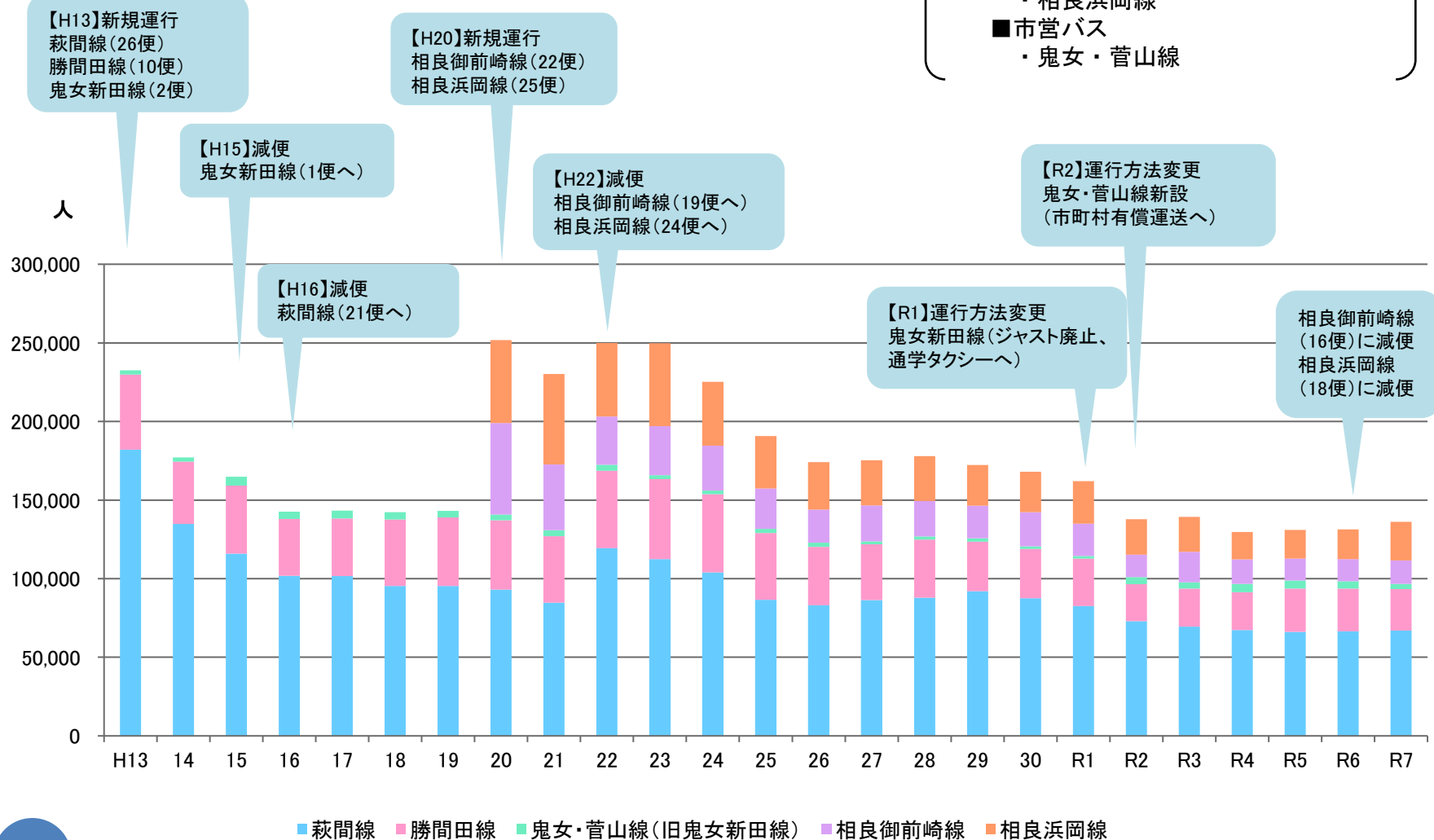
令和7年現在

■しずてつジャストライン(株)委託

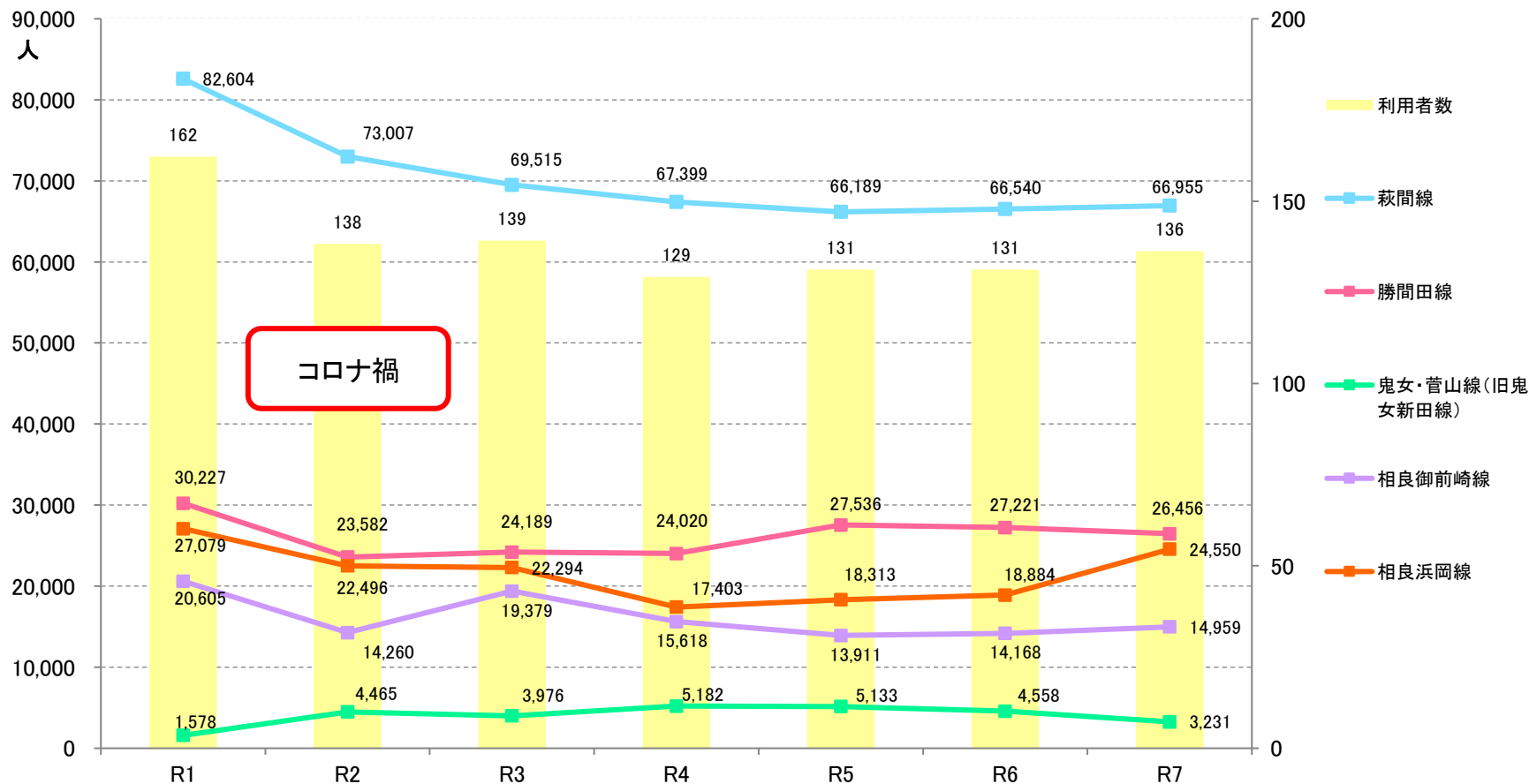
- ・萩間線
- ・勝間田線
- ・相良御前崎線
- ・相良浜岡線

■市営バス

- ・鬼女・菅山線



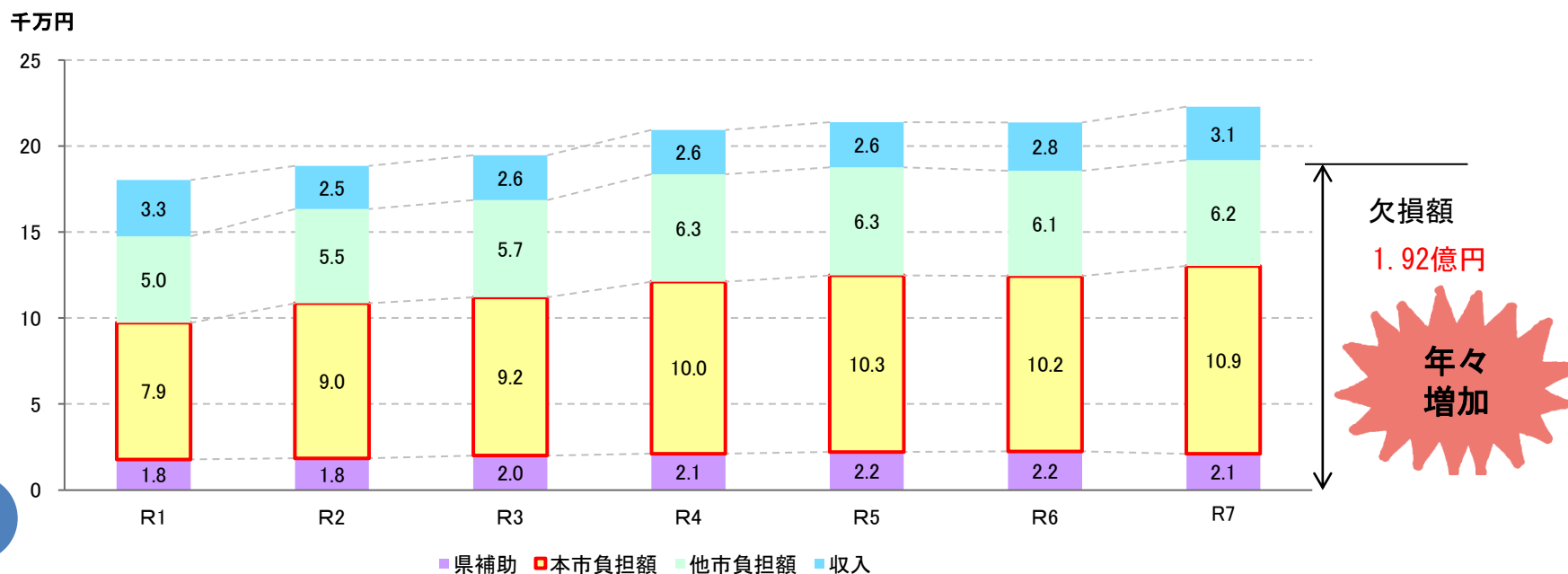
自主運行バス乗車人員の推移



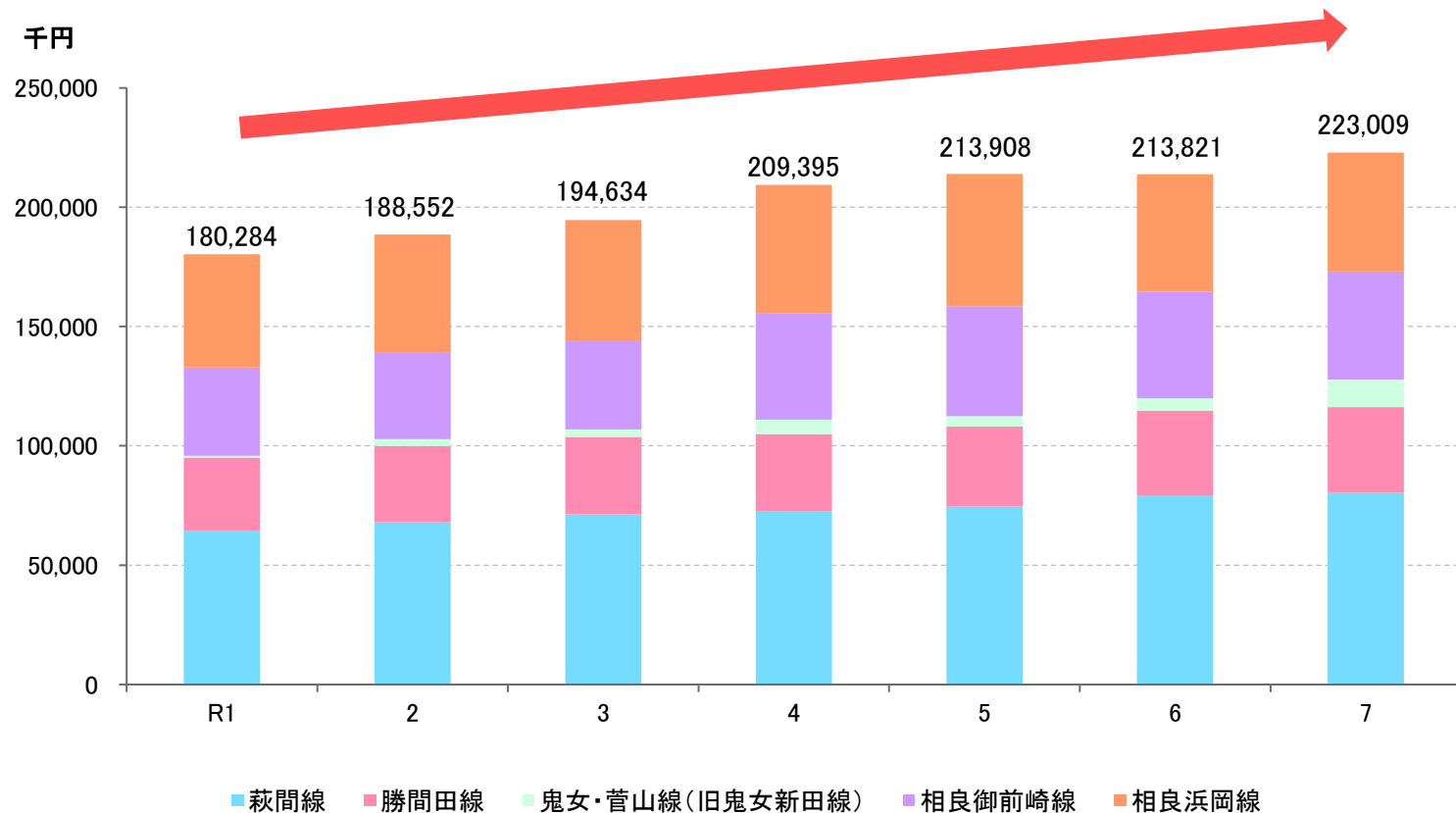
令和2年にコロナの影響により利用者数が減少した路線が多く、未だ回復していない路線がほとんど。相良浜岡線の利用者増については、御前崎市内線の運休が影響している可能性がある。

運行に関する経費(令和7年度実績)

路線名	委託金額	運賃収入	欠損額	市実質負担額
萩間線	80,267,000	15,173,825	65,093,175	35,560,425
勝間田線	35,992,000	3,384,084	32,607,916	19,526,052
鬼女・菅山線	11,633,175	323,245	11,309,930	10,448,930
相良御前崎線	45,265,000	4,601,150	40,663,850	23,735,921
相良浜岡線	49,852,000	7,590,389	42,261,611	20,591,573
計	223,009,175	31,072,693	191,936,482	109,862,901



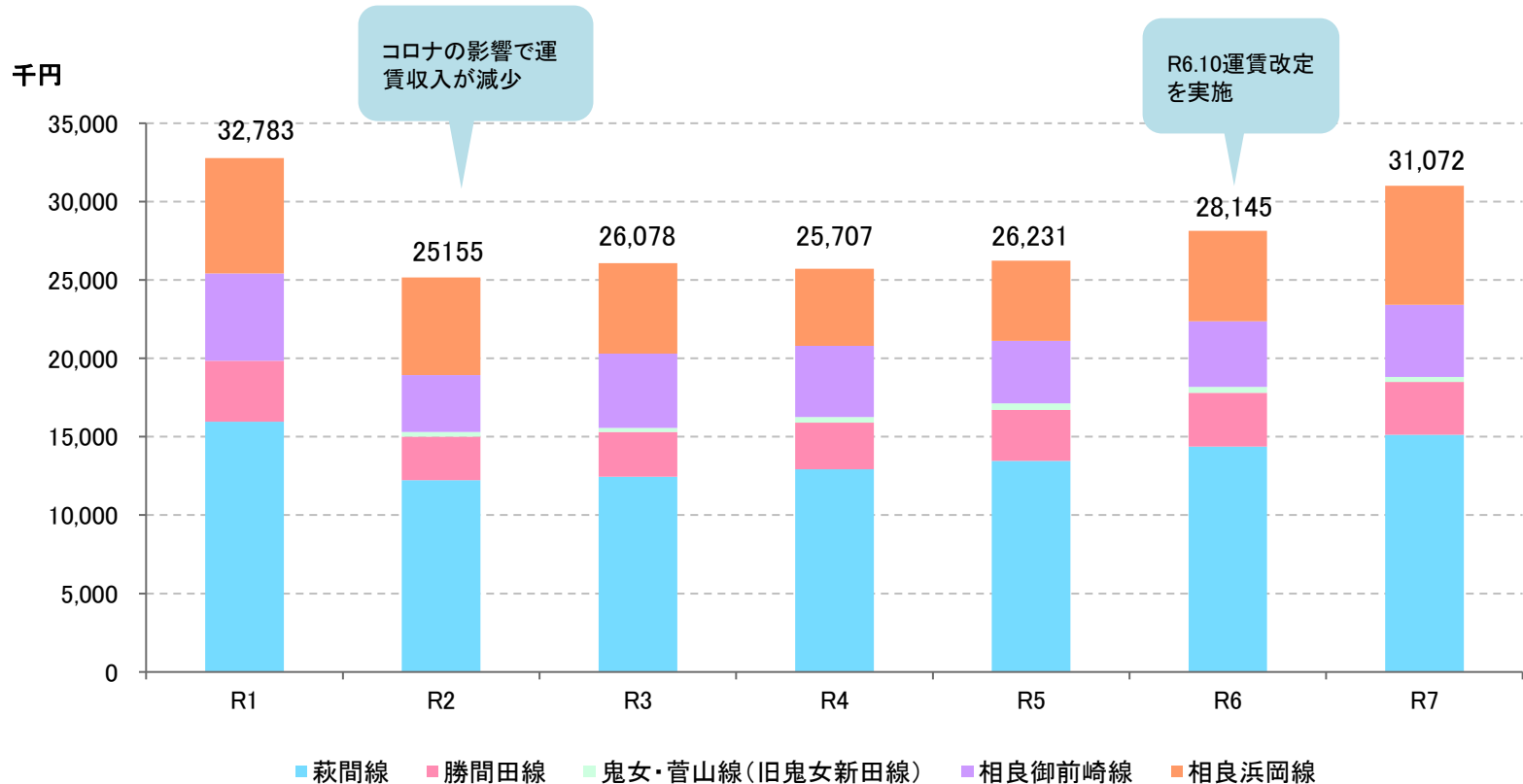
運行経費の推移



経費は年々上昇。

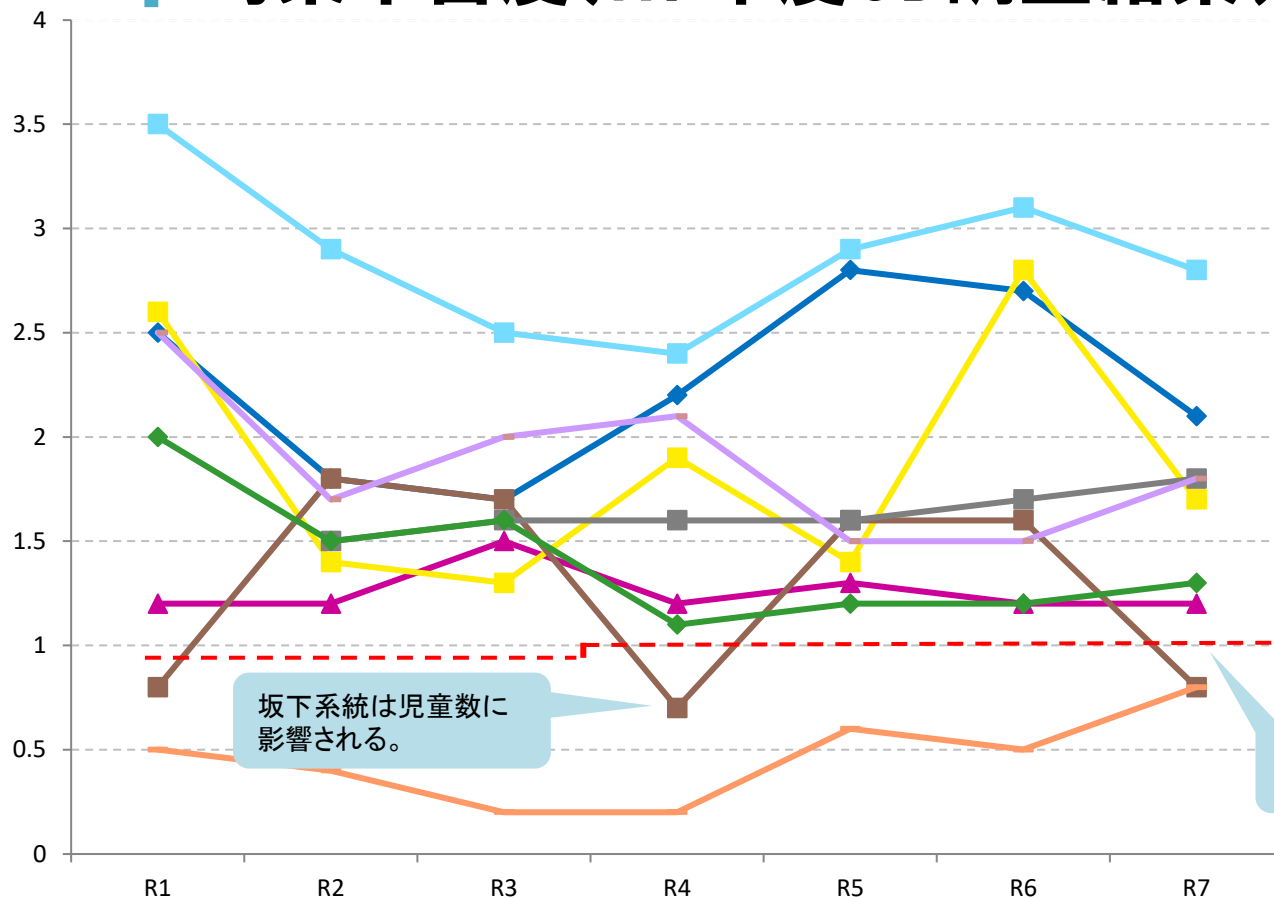
要因としては、運転手不足への待遇改善経費の増加、燃料費の変動が考えられる。

運賃収入の推移



令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響によって利用者が大幅に減少し、運賃収入も減少。その後は、令和6年度に運賃改定を実施し、回復の傾向が見られ始めた。

平均乗車密度(R7年度OD調査結果)



平均乗車密度とは？

バスが走っている区間ごとに、平均して何人の人が乗っていたかを表す指標です。
乗客は途中の停留所で乗り降りするため、1便全体の利用者数(延べ利用者数)とは異なります。

1 カウントの考え方 (例: 停留所1~10の路線)

1人の乗客について、バスに乗っている区間の長さを「停留所間の数」で数えます。

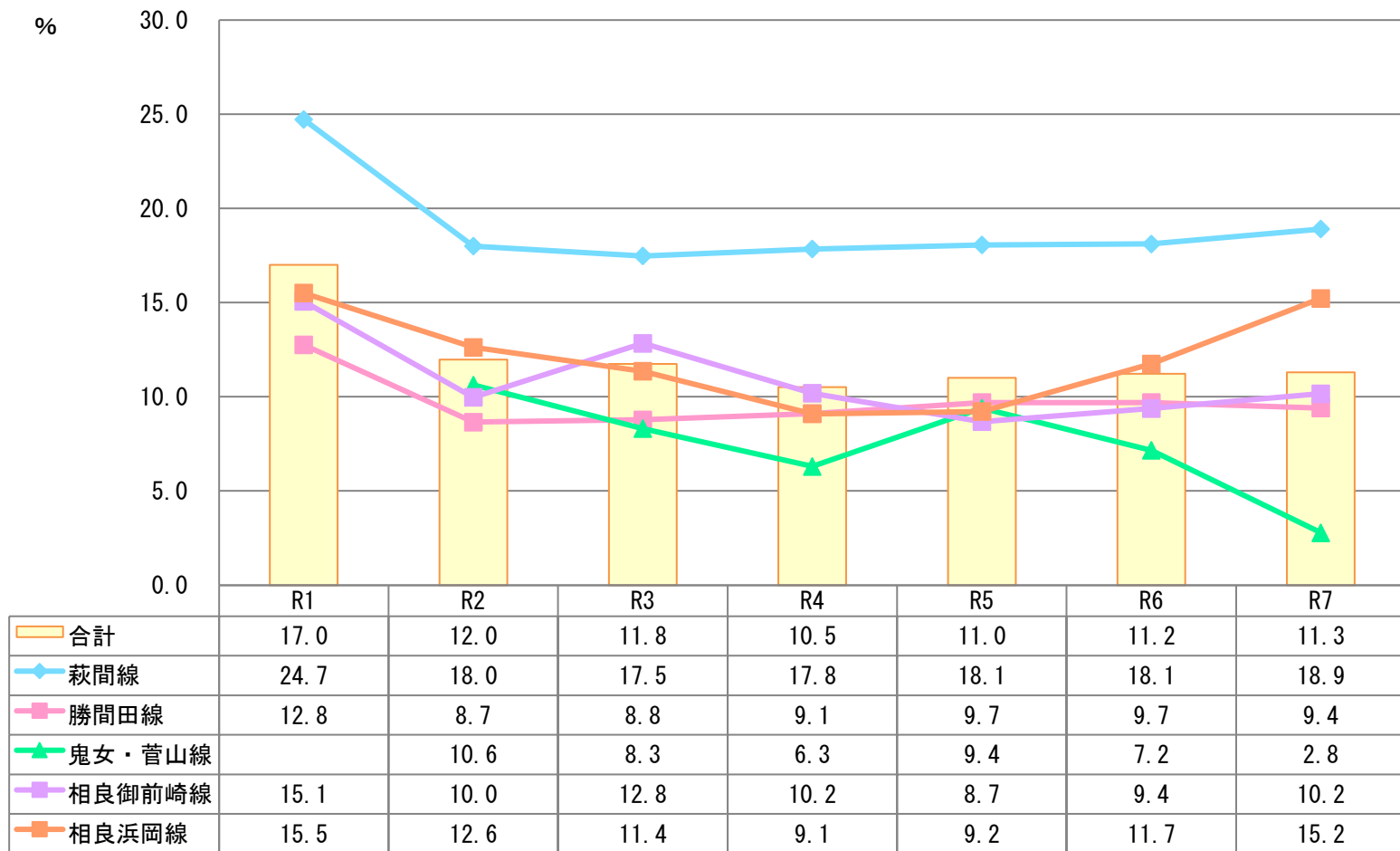
数え方の例



平均乗車密度1.2以上が県の補助金対象となる。 - - - - -

萩間線 (金谷駅系統)	萩間線 (金谷小学校系統)	勝間田線 (金谷駅系統)	勝間田線 (金谷小学校系統)	勝間田線 (坂下系統)	鬼女・菅山線	相良御前崎線	相良浜岡線 (浜岡営業所系統)	相良浜岡線 (御前崎総合病院系統)
2.1	2.8	1.2	1.7	0.8	1.8	1.8	0.8	1.3

収支率



令和2年を境に収支率が減少。令和6年10月の運賃改定を境に収支率が回復傾向にある路線も出てきている。

バス路線の方向性

【国庫補助路線】

藤枝相良線、島田静波線はＪＲ駅へ結ぶ重要な路線のため、関係市町と連携し路線を維持する。

【自主運行バス】

- ・都市計画マスタープラン、公共交通計画にある「富士山型ネットワーク構造」を形成するために、新たな路線の運行や効率的な路線維持に向けた検討を行う。
- ・新たな路線については、勝間田線・萩間線の牧之原ＩＣ周辺高台開発地への乗入れ、西部方面や富士山静岡空港へ結ぶ路線を検討する。
- ・高校生の通学における利便性向上のため、矢崎アローラインのような企業連携の推進及び高校進学を控える中学生向けのバスマップを作成する。
- ・高校生の路線バス利用促進のため、定期券補助を令和６年度から開始し、今後も継続していく。
- ・路線の新規性や柔軟性、経費抑制のため、運行形態を関係市と検討する。

デマンド乗合タクシー

令和7年4月～市内全域で本運行実施。行先として「道の駅そらっと牧之原」等を追加。病院からスーパーへの移動など、市街地の施設間の移動が可能となった。

名称	内容
さかべ号	H29. 10～試験運行 / <u>R2. 4～本運行</u>
かつまた・まきのほら号	H30. 10～試験運行 / <u>R3. 4～本運行</u> ※R6. 4月 両号を統合
すげやま・はぎま号	すげやま号 : H31. 2～試験運行 はぎま号 : R2. 2～試験運行 } R3. 4～両号を統合 <u>R4. 4～本運行</u>
さがらひがし号・にし号	R4. 12～試験運行 / <u>R7. 4～本運行</u>
しずなみ・かわさき号、 ほそえ号	R4. 11～試験運行 / <u>R7. 4～本運行</u>
じとうがた号	<u>R6. 4～本運行</u>

基本的な運行内容

【利用可能者】

- 75歳以上の者
- 自動車運転免許非保有者
- 障がい者
- 要介護、要支援認定者
- 妊婦
- 市長が認めた者（一時負傷者等）

【運行頻度】

- 週2～3日、日8便

【特定施設】

- 基本的には、市内の病院、スーパー、公共施設、金融機関

※市外の特定施設も指定

（さかべ号：吉田町6病院、じとうがた号：御前崎市5病院・1商業施設）

【運賃】

- 概ねタクシー料金の1/4（バス料金を考慮）
- お試し乗車券、10回利用での割引あり

R8. 3. 31現在	登録者数
さかべ号	88人
すげやま・はぎま号	170人
かつまた・まきのはら号	221人
じとうがた号	122人
しずなみ・かわさき号、 ほそえ号	325人
さがらひがし、にし号	210人
合計	1,136人

運行状況(令和7年度)

【 利用状況 】

名称	累計						月平均	
	運行便数 (便)	稼働率 (%)	利用者数 (人)	実利用者数 (人)	登録者数 (人)	乗合率 (人/車)	運行便数 (便)	利用者数 (人)
さかべ号	270	23.3	459	12	88	1.70	23	38
かつまた号・ まきのほら号	573	33.1	675	34	221	1.18	48	56
すげやま・ はぎま号	625	40.0	783	44	170	1.25	52	65
じとうがた号	228	26.9	309	26	122	1.36	19	26
しずなみ・かわさ き号、ほそえ号	1,073	61.1	1,208	96	325	1.13	89	101
さがらひがし・ にし号	654	40.9	748	65	210	1.14	55	62
合計または 平均	3,423	37.6	4,182	277	1,136	1.29	48	58

収支状況(令和7年度)

名称	累計				月平均		
	運行経費 (円)	運賃収入 (円)	市負担額 (円)	収支率 (%)	運行経費 (円)	運賃収入 (円)	市負担額 (円)
さかべ号	726,440	178,100	548,340	24.5	60,537	14,842	45,695
かつまた号・ まきのはら号	1,905,380	338,700	1,566,680	17.8	158,782	28,225	130,557
すげやま・ はぎま号	1,624,430	301,900	1,322,530	18.6	135,225	25,133	110,122
じとうがた号	766,580	154,300	612,280	20.1	63,882	12,858	51,023
しずなみ・かわさ き号、ほそえ号	1,925,220	331,500	1,593,720	17.2	160,435	27,625	132,810
さがらひがし・ にし号	1,381,010	231,000	1,150,010	16.7	115,109	19,250	95,859
合計または 平均	8,329,060	1,535,500	6,793,560	19.2	693,970	127,933	566,066

※自主運行バス事業費補助金（県補助）1,032,000円が充当されるため、
市実質負担額は、5,761,560円となる。

さかべ号(R7概要)

登録率 ※該当地区に在住で75歳以上の者のうち登録している割合

20.1% (88人／437人)

実利用者数

34人 (登録者の13.6%が利用)

1便あたり運行単価

2,688円

予約が多い時間帯

行き ①8:30 (159人)
②9:30 (38人)
③10:30 (38人)

帰り ①12:00 (170人)
②11:00 (45人)
③13:00 (9人)

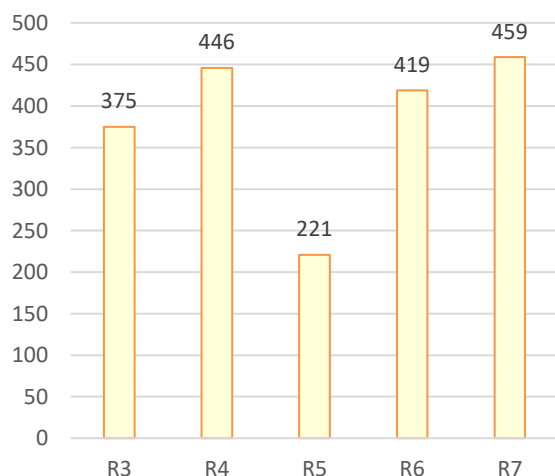
利用場所上位

①坂部区民センター (246回)
②ドン・キホーテ (74回)
③榛原総合病院 (28回)

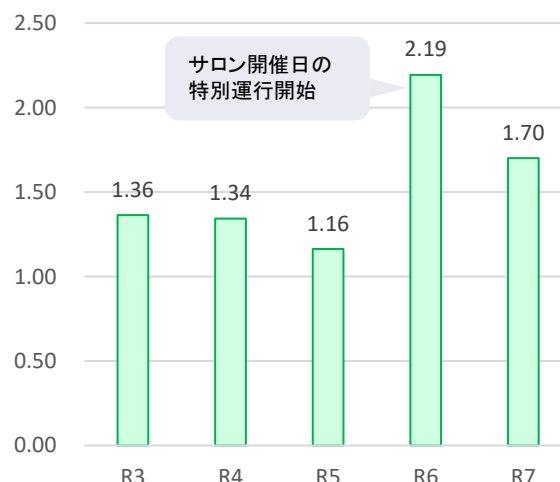
予約が多い曜日

①金曜日 (232人)
②火曜日 (99人)

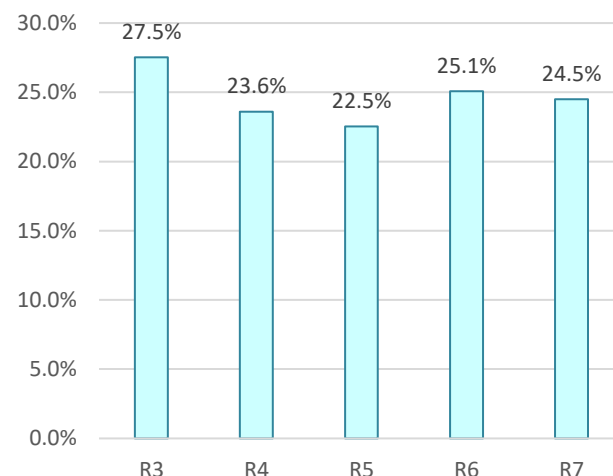
利用者数



乗合率



収支率



かつまた号・まきのはら号(R7概要)

登録率

※該当地区に在住で75歳以上の者のうち登録している割合

23.1% (221人／958人)

実利用者数

55人 (登録者の24.9%利用)

1便あたり運行単価

2,805円

予約が多い時間帯

- ①11:00 (138人)
- ②9:30 (129人)
- ③12:00 (127人)
- ④10:15 (110人)
- ⑤16:30 (51人)

※行き帰りの便の別がないため上位5位を記載

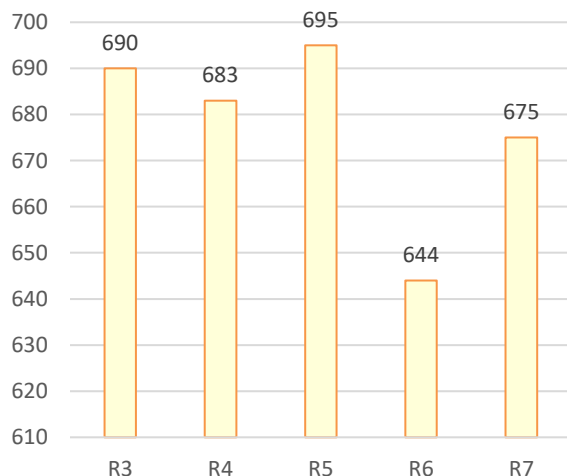
行き先上位

- ①榛原総合病院 (88回)
- ②石井内科皮膚科医院 (76回)
- ③カネハチ榛原店 (74回)

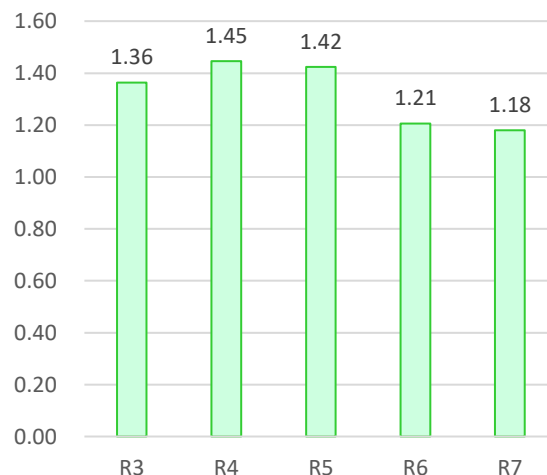
予約が多い曜日

- ①金曜日 (260人)
- ②水曜日 (208人)
- ③月曜日 (110人)

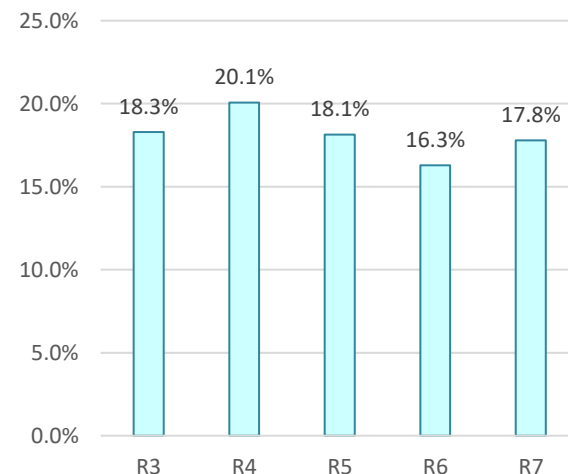
利用者数



乗合率



収支率



タクシー会社への委託開始
※それ以前は市営

すげやま・はぎま号(R7概要)

登録率

※該当地区に在住で75歳以上の者のうち登録している割合

16.8% (170人／1,014人)

実利用者数

44人 (利用者の25.9%が利用)

1便あたり運行単価

2,091円

予約が多い時間帯

行き ①9:15 (247人)
②8:15 (87人)
③10:15 (85人)

帰り ①11:00 (140人)
②12:00 (138人)
③13:00 (30人)

行き先上位

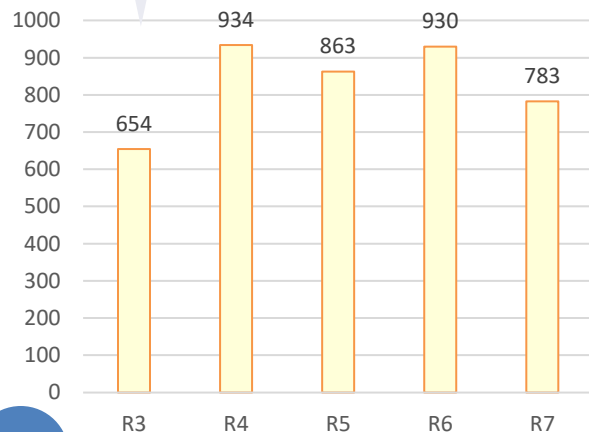
①堀口外科医院 (179回)
②渡辺内科医院 (79回)
③榛原総合病院 (71回)

予約が多い曜日

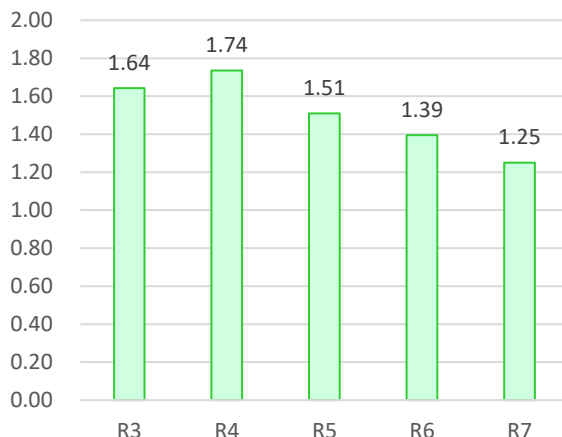
①金曜日 (342人)
②火曜日 (243人)
③水曜日 (193人) ※R6.4～追加

すげやま号とはぎま号を統合

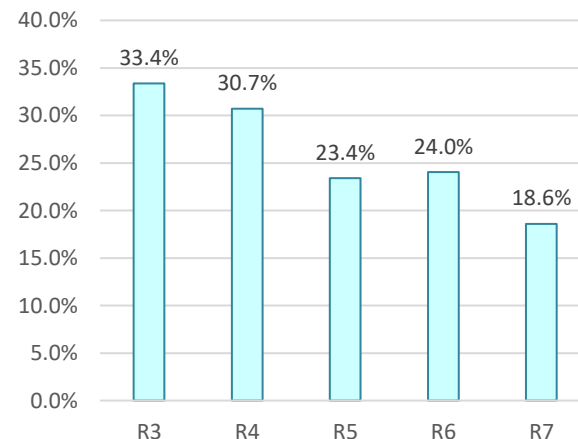
利用者数



乗合率



収支率



じとうがた号(R7概要)

登録率

※該当地区に在住で75歳以上の者のうち登録している割合

14.3% (122人／854人)

実利用者数

26人 (利用者の21.3%が利用)

1便あたり運行単価

2,563円

予約が多い時間帯

行き ①9:30 (67人)
②8:30 (59人)
③10:30 (40人)

帰り ①11:00 (61人)
②12:00 (46人)
③13:00 (19人)

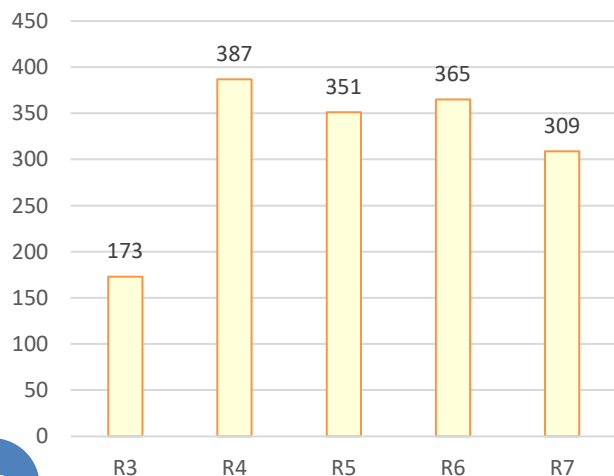
行き先上位

①地頭方原子力防災
センタージーボ (82回)
②おまえざき痛みの
クリニック (79回)
③榛原総合病院 (24回)

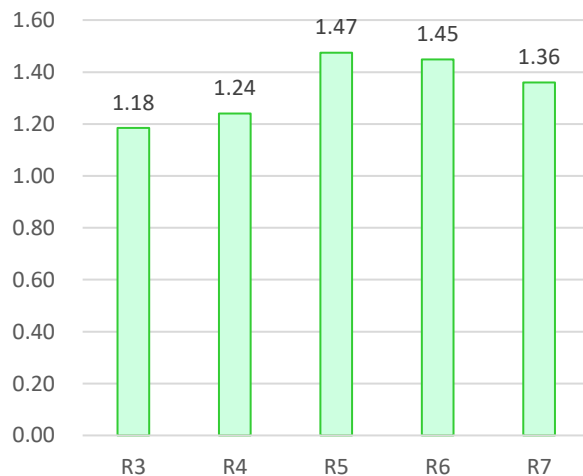
予約が多い曜日

①月曜日 (163人)
②木曜日 (146人)

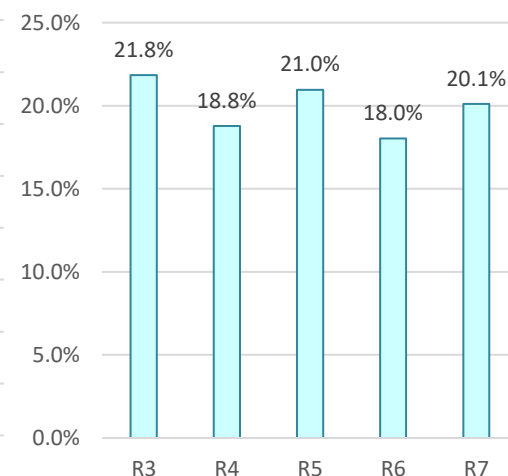
利用者数



乗合率



収支率



しずなみ・かわさき号、ほそえ号(R7概要)

登録率

※該当地区に在住で75歳以上の者のうち登録している割合

15.3% (325人／2,131人)

実利用者数

96人 (登録者の29.5%が利用)

1便あたり運行単価

1,594円

予約が多い時間帯

- ①10:30 (289人)
- ②9:30 (241人)
- ③11:30 (194人)
- ④14:30 (145人)
- ⑤8:30 (121人)

※行き帰りの便の別がないため上位5位を記載

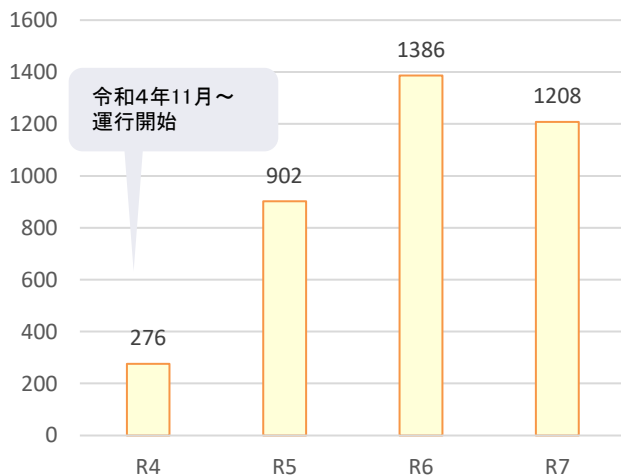
行き先上位

- ①榛原総合病院 (261回)
- ②カネハチ榛原店 (172回)
- ③石井内科皮膚科医院 (104回)

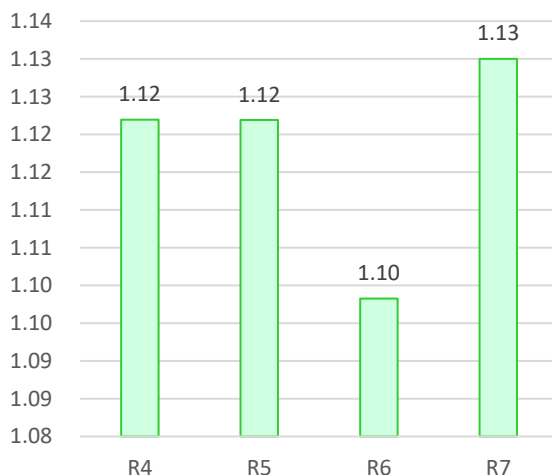
予約が多い曜日

- ①金曜日 (537人)
- ②火曜日 (354人)
- ③月曜日 (317人)

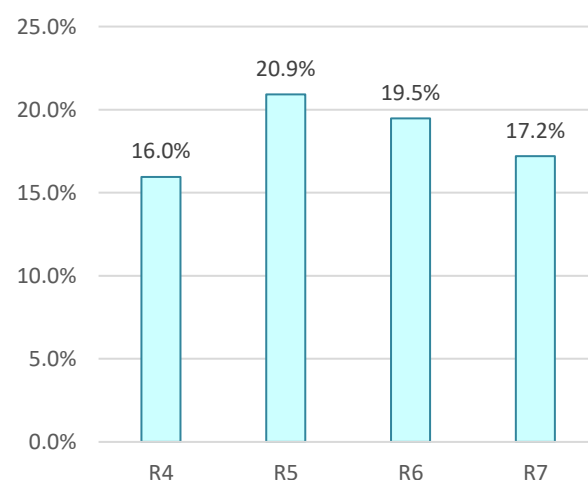
利用者数



乗合率



収支率



さがらひがし・にし号(R7概要)

登録率

※該当地区に在住で75歳以上の者のうち登録している割合

10.3% (210人／2,048人)

実利用者数

65人 (登録者の31.0%が利用)

1便あたり運行単価

1,855円

予約が多い時間帯

- ①9:30 (211人)
- ②10:30 (179人)
- ③11:30 (116人)
- ④8:30 (99人)
- ⑤14:30 (60人)

※行き帰りの便の別がないため上位5位を記載

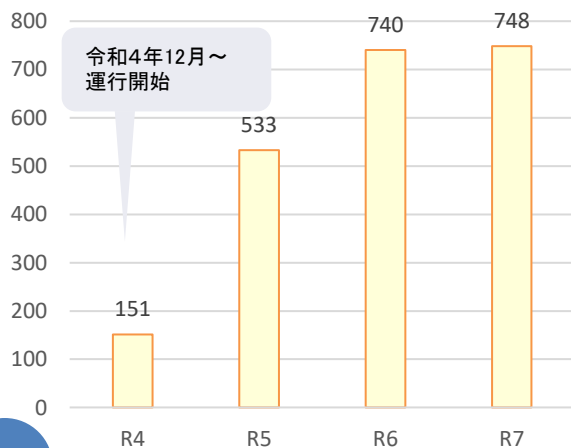
行き先上位

- ①マム相良店 (156回)
- ②榛原総合病院 (104回)
- ③堀口外科医院 (82回)

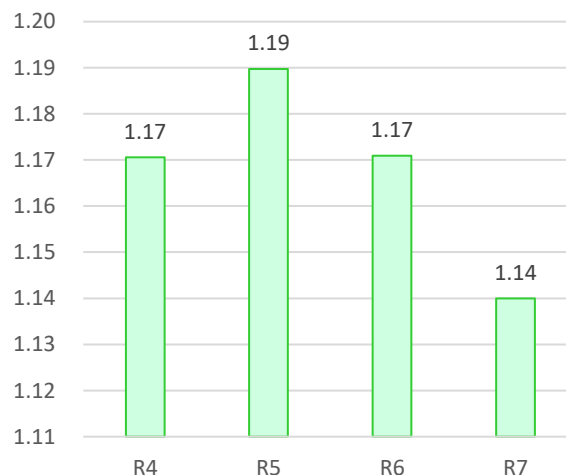
予約が多い曜日

- ①金曜日 (310人)
- ②火曜日 (262人)
- ③月曜日 (176人)

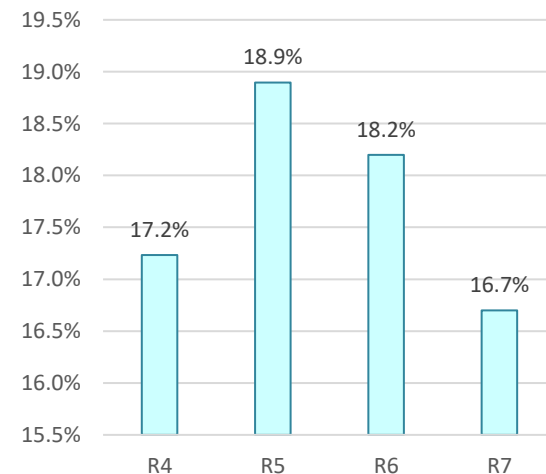
利用者数



乗合率



収支率



デマンド乗合タクシーの方向性

- ・ 利用者の利便性向上を目指し、現在平日2日～3日（曜日指定）で運行している各便について、利用可能な時間帯の増加や利用しやすい一律の金額等を検討する。
- ・ 令和7年度から施設間移動を開始したが、移動可能範囲が旧町単位（旧榛原町・旧相良町）となっている。
市内の移動がしやすいよう、移動制限の緩和について検討する。
- ・ 令和8年夏から、土日祝運行の実証運行を開始。年齢制限を撤廃し、学生等の利用も可能となる。

空港・道の駅定額タクシーの利用実績

(企画政策部地域振興課)

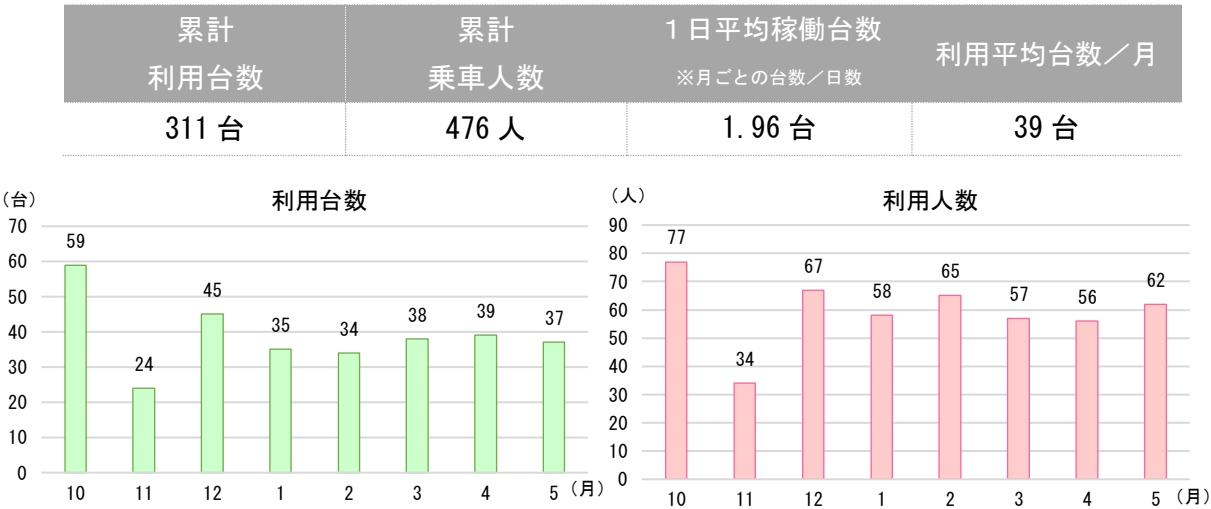
1 目的

富士山静岡空港は、開港以来、空港と市内を結ぶ二次交通がないことから、空港利用者の市内への呼び込みが長年の課題であった。

空港・道の駅定額タクシーを運行することにより、空港から市内への誘客と市民の空港及び道の駅そらっと牧之原へのアクセス改善を推進する。

2 利用実績（期間：10/3～5/31）

(1) 利用台数・人数



(2) 出発地・到着地

順位	出発地	到着地
第 1 位	静岡空港 (115 件)	静岡空港 (151 件)
第 2 位	道の駅 (37 件)	道の駅 (27 件)
第 3 位	細江・静波 (24 件)	細江 (25 件)
第 4 位	坂部 (18 件)	静波 (20 件)
第 5 位	相良 (13 件)	坂部 (18 件)

出発地・到着地ともに最も利用者の多い静岡空港については以下のとおり。

順位	出発地別累計	到着地別累計
第 1 位	空港→細江 (26 件)	細江→空港 (26 件) 静波→空港 (26 件)
第 2 位	空港→静波 (24 件)	坂部→空港 (17 件)
第 3 位	空港→相良 (16 件) 空港→道の駅 (16 件)	相良→空港 (16 件)

(3) 運行経費など

運行経費／台	運賃収入／台	市負担額／台
4,193 円	592 円	3,600 円

運行開始から5月末までに1日1.96台の利用があり、出発地・到着地ともに富士山静岡空港が最も多くなっている。空港⇄市街地の利用者が多いことから、市民の空港へのアクセス改善に対し一定の効果があると考えられる。

3 今後について

本事業により市民の空港へのアクセス向上に一定の効果が認められる一方、空港から市内への誘客や事業認知度の向上が課題となっている。

このため、周知リーフレットの内容充実、市公式LINE・ホームページによる情報発信、関係部署との連携及び地区回覧等を通じて、事業の更なる周知を図るとともに、市民及び来訪者の利用促進に取り組む。

また、利用者アンケートを実施し、利用実態や利用目的、ニーズ等を把握・分析することで、更なる利便性向上を図るとともに、空港から市内への誘客や市民の空港へのアクセス向上に繋げていく。

【アンケート項目(案)】

- ・利用者属性（居住地（市内・市外・県外）、年代、利用人数 など）
- ・利用内容（出張、観光、帰省 など）
- ・定額タクシーをどこで知ったか（市HP、市LINE、チラシ など）
- ・※空港発利用者のみ※
市内の目的地、市内での滞在予定（日帰り、1泊、2泊以上 など）
- ・利用した感想などの自由意見



富士山静岡空港 道の駅そらっと牧之原 定額タクシー



通常タクシーよりも **お得** に移動



空港または道の駅⇄市内が

なんと **300円～** 利用可能！



新規就航ベトナムハノイ線、韓国釜山^{プサン}線で、静岡から海外へ >>>>>>>>

▼ハノイ ハロン港



▼釜山 甘川文化村

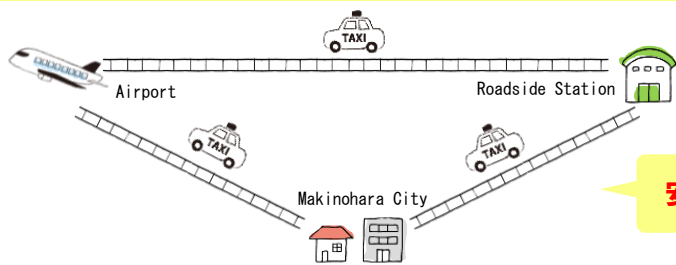


【問い合わせ先】 牧之原市役所 地域振興課

TEL : 0548-23-0053 (平日 8:15~17:00)

※タクシーの予約はタクシー会社(裏面連絡先)へお願いします。

▼ 定額タクシー詳細 ▼



誰でも利用可能！

安価な定額運賃！

ご自宅やお店など、牧之原市内のどこからでも「富士山静岡空港」または「道の駅そらっと牧之原」に定額料金で行くことができます。また、空港・道の駅間の移動も可能です。

※発着点のどちらかが空港または道の駅であれば、市内への移動に利用できます。

【利用例】

静岡空港を使って海外旅行！

（自宅（榛原地域）→¥600→空港）

point! 駐車場代を節約可能。
長期滞在も安心です。

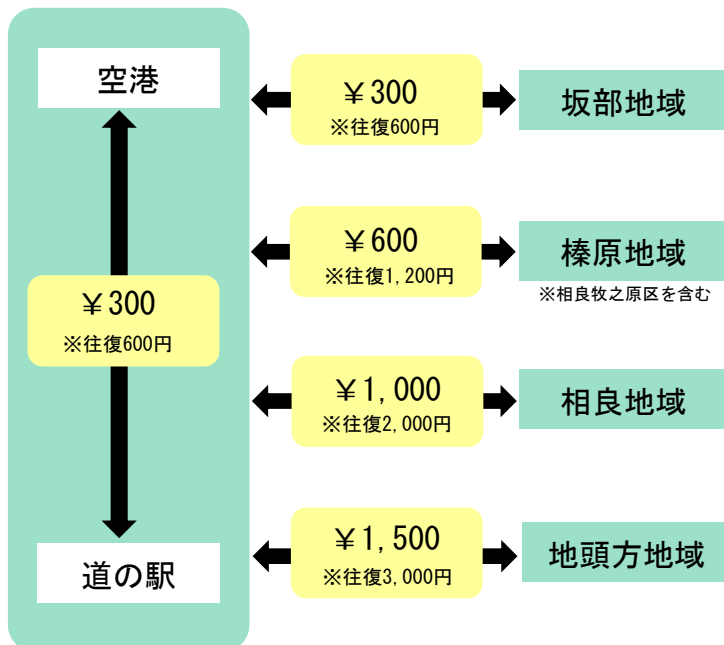
空港・道の駅を堪能！

（自宅（相良地域）→¥1000→空港
→¥300→道の駅→¥1000→自宅）

point! 駐車場が混んでいるときも
心配無用！

▼ ご利用料金 ▼

ご利用になる地域によって料金が異なります。
表示は**片道の料金**です。

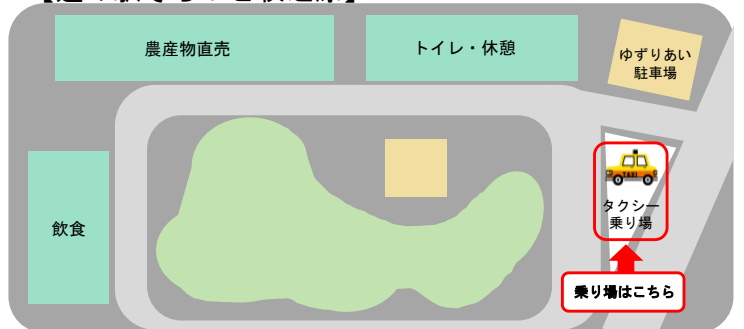


▼ 乗降場所 ▼

【富士山静岡空港】



【道の駅そらっと牧之原】



▼ ご利用方法など ▼

定額タクシーをご利用になる際は、以下のタクシー会社にご連絡ください。

▶ **東海タクシー**（0548-22-0288） ▶ **御前崎タクシー**（0548-63-2655）

☎ 榛原地域で乗降する場合	➡ 東海タクシー
☎ 相良地域で乗降する場合	➡ 御前崎タクシー
☎ 空港・道の駅発の場合	➡ 東海タクシー

※予約が混みあったり、ご指定いただいた時間に配車が間に合わない場合は、ご予約をお断りすることがあります。

※各社の営業時間内にご予約をお願いします。

【牧之原市在住の方へお願い】

市内⇄空港・道の駅を利用する場合は、より多くの方が定額タクシーを利用できるよう、**前日までのご予約**をお願いします。

矢崎アローラインの利用状況について

(企画政策部地域振興課)

1 運行内容

	概要
路線	矢崎部品（牧之原市布引原）～菊川駅（途中バス停無し）
市民利用 可能便数	菊川駅行き：1 便 矢崎行き：2 便 平日のみ（矢崎会社カレンダーによる）
運賃	無料
実施予定日	令和 7 年 4 月から（事業期間 3 年間、その後も更新継続可）
車両 （矢崎所有）	2 号 車  ブルーリボン (2018年1月) 43人 (76人) 運行事業者 遠州鉄道(株) ,
利用対象者	牧之原市民、菊川市民の事前会員登録者
保険	人身傷害保険（上限 5,000 万円）※市民利用者にも適用
乗降場所	行き：矢崎ものづくりセンター西門（敷地内） 帰り：菊川駅南口ロータリー

2 運行ダイヤ

(1) 矢崎⇒菊川駅行き（牧之原市民、菊川市民の朝の通勤、通学等の移動）

	矢崎出発	菊川駅着（運行時間約 20 分）
1 便目	7:10	7:30

※萩間線矢崎工場前バス停に 7:00 着のため、乗継可能

(2) 菊川駅⇒矢崎行き（牧之原市民、菊川市民の夕方、夜の帰宅移動）

	菊川駅発	矢崎着（運行時間約 20 分）
1 便目	18:10	18:30
2 便目	19:50	20:10

3 会員登録状況（8 年 5 月末）

【合計】61 人

牧之原市民 54 人

菊川市民 7 人

【牧之原市】54 人

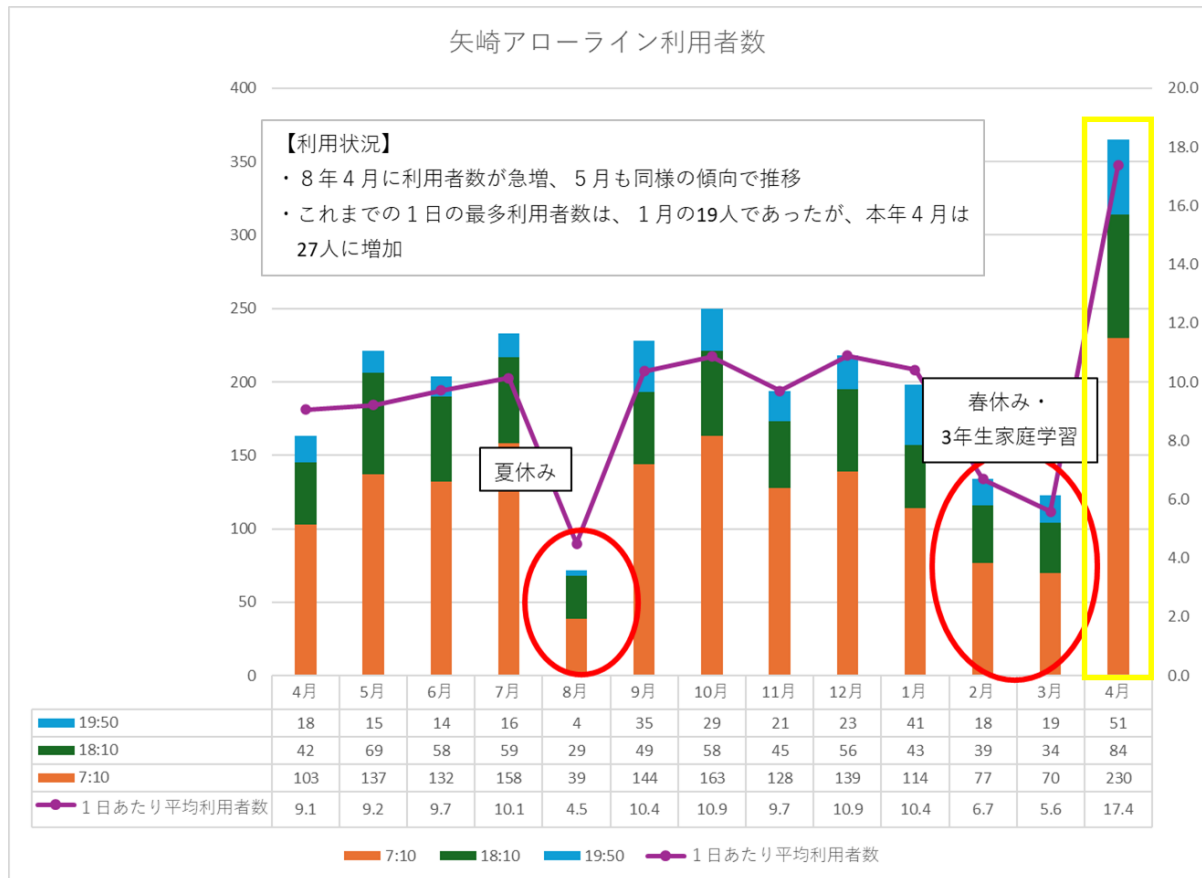
布引原等（地元町内会）23 人

榛原地域 10 人

相良地域 21 人

中学生	常業中	2	2
高校生	掛西	13	37
	常業高	15	
	小笠	4	
	浜松学芸高	1	
	藤枝明誠	2	
	静岡学園	1	
	不明	1	
大学・予備校	常業大	1	3
	文化芸術大	1	
	河合塾	1	
大人（不明者含む）		13	13
高齢者（65歳以上）		6	6
合計			61

4 利用状況 (R7. 4～R8. 4)



5 今後の方針

- ① 周知：市公式LINE、市HPによる再周知
- ② 関係者協議：矢崎部品(株)と菊川市との意見交換
- ③ 会員登録者アンケート調査（案）

目的：公共交通計画の策定に係るニーズ把握調査のため

対象：牧之原市在住の会員登録者（54人）

内容：① 回答者基本情報（住所、年齢など）

② 利用目的（通勤、通学、その他）

③ 利用便、利用頻度

④ 使ってみての感想

⑤ 改善要望

⑥ 進学の実選択肢が増えたと思うか

⑦ 自由意見

6 その他

アローラインは、白ナンバー車両による自社バスの無償送迎であるため、「道路運送法における許可又は登録を要しない運送」に該当するが、運行受託者は、道路運送法第4条の旅客自動車運送事業者の遠州鉄道(株)であるため、運行管理体制は緑ナンバーの運行体制と同様に、安全運行が図られている。

令和 7 年度路線バス通学定期券購入費補助金について

(企画政策部地域振興課)

1 概要

路線バス通学定期券購入費補助金は、路線バスの利用促進及び家計負担の軽減を図ることを目的に、通学定期券を購入し、高等学校等に通学する生徒又は保護者等に対して補助金を交付するものである。

2 補助額及び補助率

学校別	補助額	補助率
市内高校	30,000 円 (上限)	購入金額の 1/2
市外高校	20,000 円 (上限)	

※年度内に生徒 1 人につき 5 万円以上の定期券を購入した場合に対象

※市内高校（榛原高等学校・相良高等学校の生徒確保を支援するため、補助額に差を設けている。

3 実績

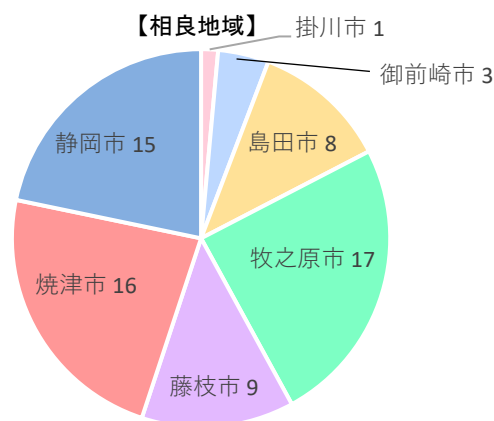
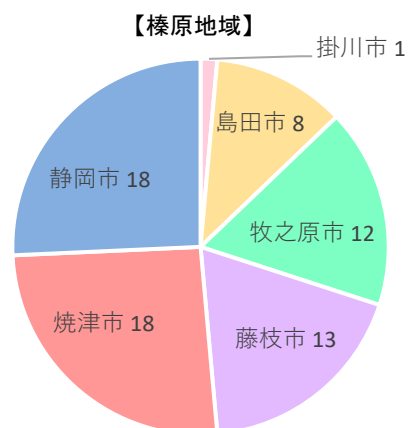
(1) 支給人数：139 人 (136 世帯)

(R 6 実績：151 人 (146 世帯))

(2) 支給額：3,062,000 円 (財源：5 市 2 町 2,000,000 円 市単：1,062,000 円)

(R 6 実績：2,713,000 円 (財源：5 市 2 町 2,000,000 円 市単：713,000 円))

(3) 居住地域別通学高校



《榛原地域在住》

通学高校所在市	人数	高校例
掛川市	1	掛川東 1
島田市	8	島田 1 島田商業 6 ふじのくに 1
牧之原市	12	相良高校 12
藤枝市	13	藤枝東 10 藤枝明誠 2 藤枝順心 1
焼津市	18	清流館 9 焼津中央 9
静岡市	18	静岡 5 静岡市立 1 駿河総合 1 他
合計	70	

《相良地域在住》

通学高校所在市	人数	高校例
掛川市	1	掛川西 1
御前崎市	3	池新田 1 掛川特支（御前崎分校） 2
島田市	8	島田工業 5 島田商業 1 島田実業 1 他
牧之原市	17	榛原 15 相良 2
藤枝市	9	藤枝東 6 藤枝明誠 2 静清 1
焼津市	16	清流館 15 焼津水産 1
静岡市	15	静岡 3 静岡翔洋 3 城南静岡 1 他
合計	69	

榛原地域からは、藤枝市や焼津市など東部方面へ通学する学生が多く、相良地域からは、牧之原市内、御前崎市などへの通学が見られ、市内や西部方面への割合が榛原地域と比較して多い傾向にある。

また、定期券補助の利用が最も多い高校を地域別にみると、榛原地域では相良高校、相良地域では榛原高校となる。

（４）使用路線 ※通学に２つの路線を利用している場合あり（例：特急+藤枝相良）

路線名	利用者数
特急静岡相良線	107 人
藤枝相良線	14 人
島田静波線	11 人
萩間線	7 人
相良浜岡線	4 人
相良御前崎線	1 人

バス通学を選択している生徒の７割強が特急静岡相良線を利用しており、中には、藤枝相良線、島田静波線、相良浜岡線と併用して市内高校や清流館高校等に通学をしている生徒もいる。

4 市内高校の生徒確保について

年度	市内高校 定期券申請者数	市外高校 定期券申請者数	申請者全体に占める 市内高校申請者数
令和６年度	31 人	119 人	26.0%
令和７年度	29 人	110 人	26.3%

市内在住の榛原高校・相良高校への在籍者数は令和６年度から令和７年度にかけて約６％減少しているが、定期券補助申請者数は３１人から２９人と概ね維持されていると言える。

《参考》 榛原高校及び相良高校の在籍者数（市内在住者のみ）

年度	榛原高校	相良高校	合計
令和６年度	214 人	212 人	426 人
令和７年度	207 人	194 人	401 人

MAKI
NO
HARA

路線バスで通学する
牧之原市在住の高校生等の
通学定期券代を補助します



牧之原市 高校生通学定期券補助

2026 07.01 WED 申請開始

▼ ご確認ください ▼

💡 確認ポイント

- 1 牧之原市に住む高校生等が対象です。
- 2 年度内に生徒1人につき5万円以上の定期券を購入した際に補助対象となります。
※購入時期の異なる複数の定期券を合算できます。
- 3 市内を運行する路線バスを使用してください。

申込フォームはこちら ▶

<https://logoform.jp/form/gCEn/1094590>



📄 申請に必要な書類

- 1 学生証など、高等学校等に在学していることを証明するもの
- 2 通学定期券の控え券紙



◀定期券を購入する際に発行される控え券です。

📍 補助金額

市内高校に在学

30,000 円(上限)

市外高校に在学

20,000 円(上限)

※市内高校の生徒確保を支援するため、補助額に差を設けています。
ご理解とご協力をお願い申し上げます。

お問い合わせ先はこちら 詳細はホームページでご確認ください。

牧之原市役所 地域振興課

牧之原市静波447-1

TEL. 0548-23-0053

受付(平日 8:15~17:00)

牧之原市 定期券補助

検索

ホームページはこちら ▶



▼ 通学定期券補助詳細 ▼

申請可能期間

申請可能期間は以下のとおりです。

1 回目、2 回目のいずれかの期間内にお申込みください。

1 回目：令和 8 年 7 月 1 日（水）～令和 8 年 8 月 31 日（月）
2 回目：令和 9 年 1 月 4 日（月）～令和 9 年 2 月 26 日（金）

※定期券の購入時期を指定するものではありません。（例：2 回目に 4 月購入の定期券補助の申請可能）

補助条件

次に掲げる要件全てを満たしている者

- ① 高等学校等に在学中で、市内に住所を有する生徒の保護者等
- ② 令和 8 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日までの間を有効期間とし、かつ、年度を通じた購入額が生徒 1 人に対し 5 万円以上となる通学定期券を購入した保護者等
- ③ 世帯員の全員が納付すべき市税等を滞納していない世帯

対象路線

しずてつジャストライン株式会社が運行する以下のいずれかの路線バス

- ・ 特急静岡相良線
- ・ 藤枝相良線
- ・ 島田静波線
- ・ 萩間線
- ・ 勝間田線
- ・ 相良御前崎線
- ・ 相良浜岡線

補助率・上限額

補助率

購入金額の 1/2

上限額

市内の高等学校に通学 ➡ 3 万円

市外の高等学校等に通学 ➡ 2 万円

※高等学校等とは

高等学校や中等教育学校の後期課程、特別支援学校高等部、高等専門学校等、専修学校及び各種学校のうち高等学校の課程に類する課程をおくものとして文部科学省令で定めるもの

手続きの流れ

① 申請

以下のいずれかの方法で申請してください。

- ・ 申請フォームへの入力（所要時間 10 分程度）

※学生証と定期券控え券の画像添付が必要となります。スマートフォン等で写真を撮影して添付してください。

- ・ ホームページから申請書を印刷し、地域振興課へ持参

※添付に必要な学生証と定期券控え券を事前にコピーしてお持ちください。



申込フォーム

② 交付決定

申請後、市での審査を経て交付決定通知書が送付されます。



ホームページ

③ 支給

申請時にご提出いただいた口座へ市から振り込みを行います。

【 問合せ先 】

〒421-0495 牧之原市静波 447-1 牧之原市役所榛原庁舎 5 階 企画政策部地域振興課

TEL : 0548-23-0053 fax : 0548-23-0059 mail : kotsu@city.makinohara.lg.jp

牧之原市地域公共交通計画（R9～R12）の策定について

（企画政策部地域振興課）

1 計画の概要

（1） 地域公共交通計画の概要

地域公共交通のマスタープランとなる「地域公共交通計画」は、国が全ての地方公共団体における計画の作成や実施を「努力義務」として定めており、地方公共団体が中心となって、交通事業者や住民などと協議しながら策定、推進していくこととしている。

（2） 本市の計画

令和 4 年度に策定した「牧之原市地域公共交通計画（R5～R8）」が計画満了を迎えるため、次期計画（R9～R12）の策定作業を令和 8 年度に実施する。

【本市計画の策定経過】

第 1 次：牧之原市地域公共交通網形成計画（H30～R 4 までの 5 年間）

第 2 次：牧之原市地域公共交通計画（R 5 ～R 8 までの 4 年間）

第 3 次：牧之原市地域公共交通計画（R 9 ～R12 までの 4 年間）

2 次期計画の策定方針

（1） 計画の主な視点

令和 10 年度にまちびらきを控える高台エリア（牧之原市 IC 北側土地区画整理事業）にバスターミナルを整備し、JR 駅などとの接続拠点とする予定であるが、高台バスターミナルを中心とした富士山型ネットワークの形成にあたり、既存の路線バスの再編や新規路線創出を検討する。

また、静波海岸を中心とした沿岸部の開発や義務教育学校の開校、人口減少や高齢化など、将来を見据えた交通ネットワークの構築を検討する。

（2） 業者選定

計画の策定については、国が求めるモビリティデータを活用した計画のアップデートや、富士山型ネットワーク交通を具体化するためのシミュレーション調査に対応可能な民間事業者へ委託する。

ア 委託事業者；公募型プロポーザル方式による選定

イ 見積限度額：12,000 千円（県補助：8,000 千円、市単：4,000 千円）

ウ 審査方法：プレゼンテーション（交通ネットワークの提案など）

エ 選定方法：関係部長、学識経験者で組織する選定委員会で審査し、決定

(3) ニーズ把握調査（案）

市民意見の計画書反映を目的に、以下の調査を実施

種別	対象	詳細
1 ヒアリング 意見交換	関係団体、地域	民生委員、高校、区会など
	交通事業者、企業	バス、タクシー事業者、空港㈱、榛原総合病院など
	関係市町、庁内	共同運行市町、庁内の関係部課
2 アンケート 調査	公共交通利用者	バス、デマンド、定額タクシーの利用者
	保護者	小6、中3、通学定期補助者
	関係団体	高齢者サロン代表者、市内企業
	その他	LINE・HP等での意見募集
3 その他	乗降調査	自主運行バス等の全便乗降調査

(4) 富士山型ネットワークシミュレーション調査

最適な富士山型ネットワークの整備を目的としたシミュレーション調査を実施する。

【主な調査項目】

ア 富士山型山頂部

高台エリアの人流予測、高台と西部方面の JR 駅や静岡空港との接続

イ 富士山型斜面部

高台エリアと榛原、相良両市街地との効果的な接続（自主運行バス再編）

ウ 富士山型裾野部

沿岸部のバス路線の改善

エ その他

自動運転、ライドシェア、AI オンデマンド等の新たなモビリティの導入の可能性

3 策定スケジュール

計画内容の協議は、牧之原市地域公共交通会議で行う（R8 は 5 回開催予定）

実施時期	計画策定	公共交通会議
令和 8 年 5 月	プロポーザル公募開始	
6 月		第 1 回（スケジュール説明）
7 月	プレゼンテーション審査、契約	
8 月	モビリティデータ収集・分析 ニーズ把握調査	第 2 回（ニーズ把握調査説明）
9 月		
10 月		評価改善部会（経過報告）
11 月	課題・基本方針の整理、施策検討、目標設定、素案完成	
12 月		第 3 回（計画素案協議）
令和 9 年 1 月		
2 月	パブリックコメント	第 4 回（最終協議）
3 月	完成	

牧之原市地域公共交通計画における取組 事業の方向性と課題について (令和 8 年度版)



令和 8 年 6 月作成

牧之原市 企画政策部 地域振興課



令和5年度からの事業計画

牧之原市地域公共交通計画の推進（計画期間R5～R8の4年間）

方 針	目 標	事 業
基本方針1： 富士山型ネットワーク構造 の形成に資する地域公共交 通ネットワークの構築	①バス利用者数・・・令和元年度に回復 ②バス収支率・・・令和元年度に回復 ③バス公的負担額・・・令和元年度まで抑制	1：沿岸部の路線の維持・再編（幹線軸（裾野部））
		2：市街地と高台エリアを結ぶ路線の再編 （幹線軸（斜面部））
		3：富士山型山頂部からの路線の創出 （広域交流拠点連携軸（山頂部））
基本方針2： 地域公共交通の利便向上、 利用促進策の推進	④利用者数・・・令和3年度より増加 ⑤乗合率・・・令和3年度より向上 ⑥会員登録者率・・・令和4年より向上	4：高齢者等の移動手段の提供
	⑦利用者満足度・・・令和4年度より向上	5：拠点バス停の環境整備の推進 6：誰もが利用しやすいサービスの提供
	⑧取組件数・・・令和3年度より増加	7：モビリティマネジメントの推進
基本方針3： 持続可能な運行を支える他 分野との連携した取組と体 制強化	⑨市民満足度・・・令和4年度より向上	8：観光施策と連携した取組の推進
		9：移住定住、子育て支援につながる取組の推進
		10：自動運転技術などのDX化やICTを活用した取組の推進 11：市民意見を尊重する協議体制と関係者の連携強化

牧之原市地域公共交通計画

基本方針 1

富士山型ネットワーク構造の形成に資する地域公共交通ネットワークの構築

事業 1：沿岸部の路線の維持・再編（幹線軸（裾野部））

取組項目	路線	状況・課題	R 8 取組
① 榛原総合病院への乗り入れ便数の増便	特急静岡相良線	医療従事者の負担軽減や通院者の利便向上を理由に、榛原総合病院からも要望があるが、距離増加や速達性の観点から実現に至っていない。	・ 榛原総合病院、しずてつジャストラインとの意見交換 ・ 根松バス停での乗降調査
② 自主運行バスの改善・見直し	相良御前崎線 相良浜岡線	- 令和 6 年 4 月運行からの減便により、市負担の削減を図ったが、近年の経費上昇や運賃収入の減少により、削減前と同等に戻っている。 - 共同運行する御前崎市がAIオンデマンドを導入したことで、運行休止中の御前崎市内線の利用客が両路線に流れたことで、利用客の増加や収支改善が図られた。 - 相良総合センターい〜ら、ガスワンアリーナ、図書交流館いこっとへの移動手段を確保するため、道路整備の進捗に合わせ経路を変更をする。（R10以降の変更を予定）	御前崎市との協議（効率化、将来の方向性）

【参考】
榛原総合病院への乗り入れ状況

方面・運行時間帯	便数	病院停車便
相良⇒静岡（8:42～15:35の時間に停車）	49	17
静岡⇒相良（8:47～16:21の時間に停車）	50	23
※土日祝は全便停車しない（相良⇒静岡：29便、静岡⇒相良：30便）		



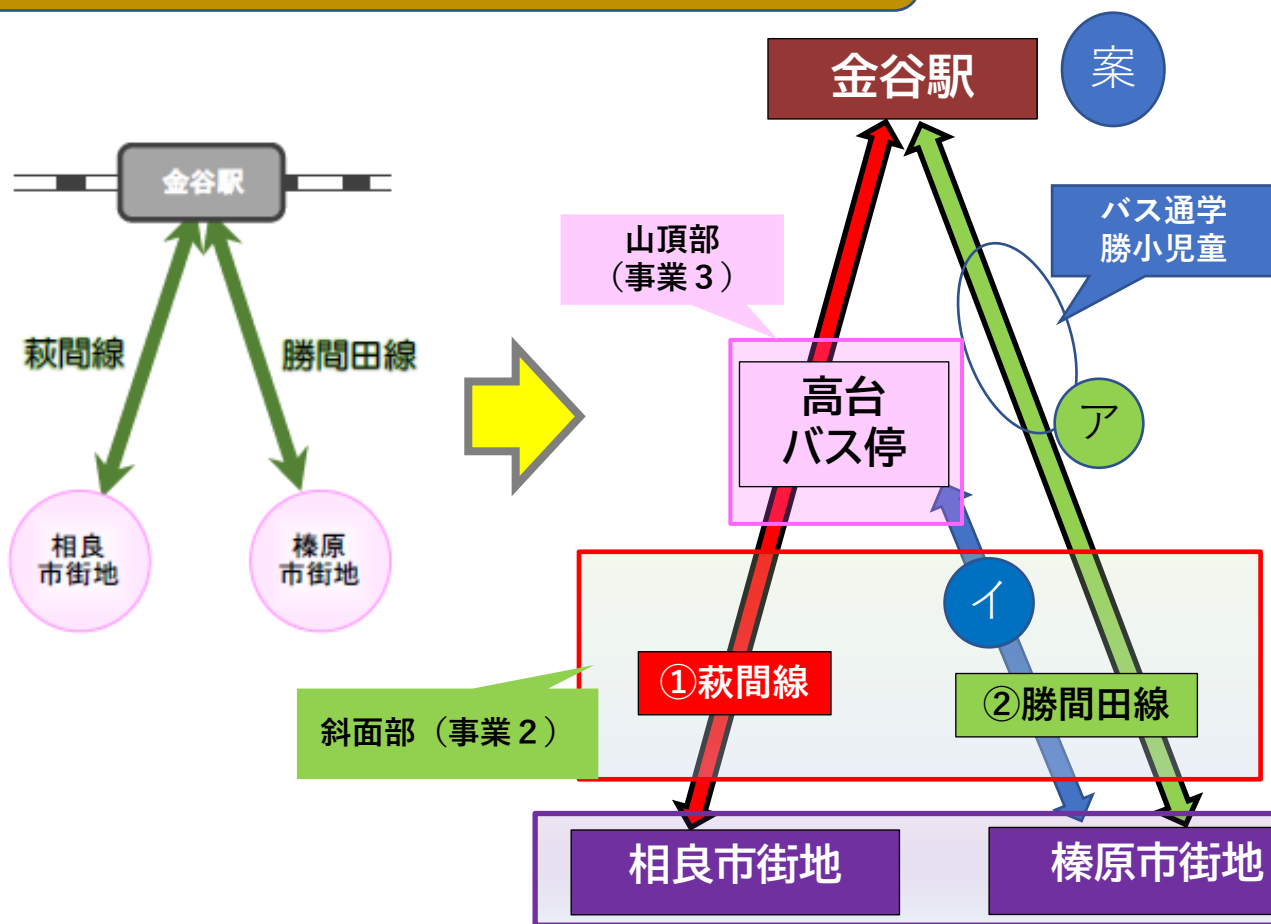
牧之原市地域公共交通計画

基本方針 1

富士山型ネットワーク構造の形成に資する地域公共交通ネットワークの構築

事業2：市街地と高台エリアを結ぶ路線の再編（幹線軸（斜面部））

① 自主運行バス萩間線、勝間田線の高台エリアへの接続



年度	スケジュール
R 8	高台エリアバスターミナルの位置、進入経路、待合所検討
R 9	バス事業者・関係市、地元との調整・周知、経路変更手続き
R10	バスターミナル設置工事、高台エリアまちびらき、高台バスターミナル接続開始

（方向性）

- ① 萩間線：高台バス停へ接続
- ② 勝間田線

ア 勝間田小児童の通学手段維持のため、学校再編に伴うスクールバスの運行開始までは路線維持（その後は今後検討）
イ 榛原市街地と高台エリアを結ぶ路線を運行（榛原方面から矢崎アローライン等へ接続可能）

※公共交通計画のシミュレーション調査で決定する



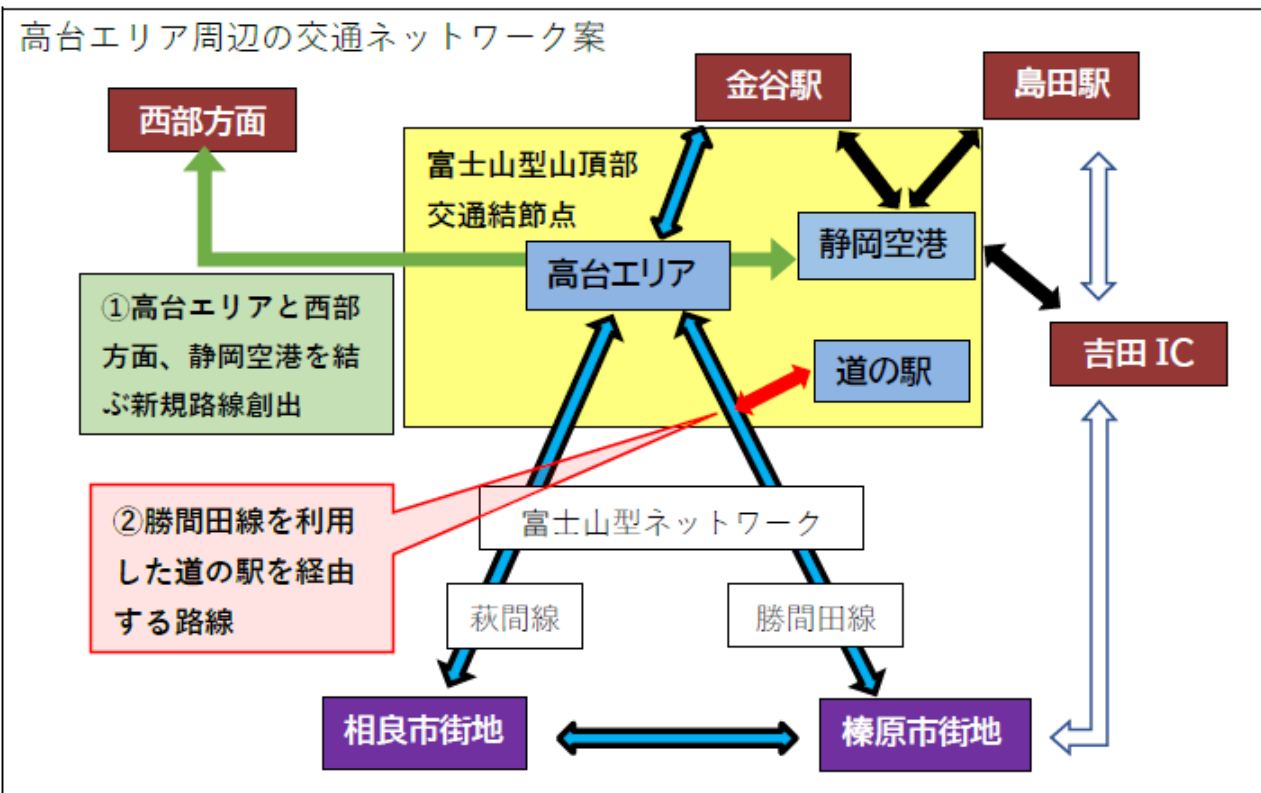
牧之原市地域公共交通計画

基本方針 1

富士山型ネットワーク構造の形成に資する地域公共交通ネットワークの構築

事業3：富士山型山頂部からの路線の創出 (広域交流拠点連携軸(山頂部))

① 高台エリアと西部方面や静岡空港を結ぶ路線の創出



年度	スケジュール
R8	矢崎アローライン（菊川駅行き）運行継続（R8～） バス事業者・関係市との調整、意見交換
R9	地元との調整・周知、経路変更準備
R10	・バスターミナル設置工事 ・高台エリアまちびらき、高台バス停接続開始（西部方面、静岡空港路線接続開始）

【西部方面や静岡空港への接続方法】

※公共交通計画のシミュレーション調査で決定

- ① 西部方面
企業送迎バス（矢崎アローライン）、菊川市コミュニティバス等の既存の輸送資源の活用＋**新規路線を検討**
- ② 静岡空港
空港アクセスバス、定額タクシー、デマンド交通＋**新規路線を検討**



事業 4：高齢者等への移動手段の提供

① デマンド乗合タクシーの運行継続、利便向上

現在の運行状況	運行状況	運行会社	運行便数	特殊事情
さかべ号	本格運行	東海タクシー	週 2 8 便/日	吉田町の病院への運行 サロンの臨時運行
かつまた号・まきのはら号			週 3 6 ～ 8 便/日	
しずなみ・かわさき、ほそえ号			週 3 8 便/日	
すげやま・はぎま号		御前崎タクシー	週 3 8 便/日	
じとうがた号			週 2 8 便/日	御前崎市の病院、スーパーへの運行
さがらひがし、にし号			週 3 8 便/日	

課題	内容	R 8 取組
① 号の統合	号ごとに異なる事項の統一 (シンプルな制度へ移行)	榛原 1 地区、相良 1 地区を目指して、行先、運賃、時刻などの統合を検討
② 制限の緩和	年齢、曜日、便数、行先 (旧町単位) の制限緩和	R8：土日祝運行で誰でも利用可能なデマンドの実証運行
③ 利便向上	新たな改善策を検討	サブスク (定額乗り放題)、回数券、予約アプリなど

牧之原市地域公共交通計画

基本方針 2 地域公共交通の利便向上、利用促進策の推進

事業 5：拠点バス停の環境整備の推進

① 結節点となる高台バス停の整備



イメージ

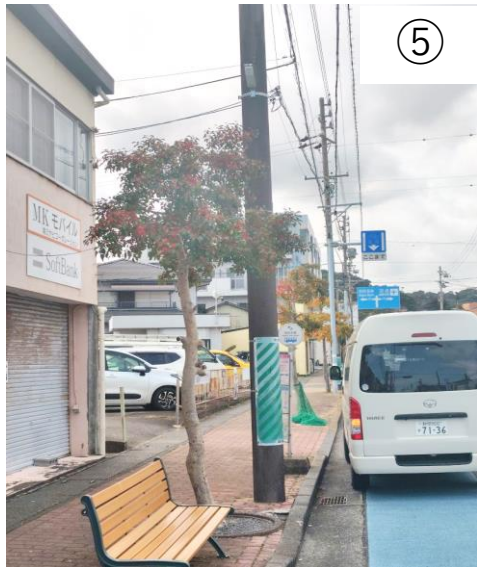
年度	スケジュール
R 8	関係者との調整
R 9	事業着手（設計）
R10	待合所、ベンチ、通路雨除け、バスロケーションシステム整備工事、運用開始



③



④



⑤

② その他の拠点バス停整備

年度	バス停	整備内容
R3	相良本通バス停（上り）	① 屋根付き待合所整備
R4	相良本通バス停近く	② バス利用者駐輪場整備
R5	（自主）相良本通バス停（下り）	③ 待合ベンチ整備
R6	根松バス停（下り）※R7増設	④ サイクルラック整備
R7	相良本通バス停（自主）	⑤ 照明灯の設置
	相良地域	⑥ バス利用者駐車場整備
	相良営業所	⑦ バス利用者駐輪場整備
	大沢公園バス停	⑧ バス利用者駐輪場整備
R8	榛原地域	⑨ バス利用者駐車場整備

⑥

相良地域バス利用者駐車場、駐輪場MAP 参照

⑦

⑧



牧之原市地域公共交通計画

基本方針 2 地域公共交通の利便向上、利用促進策の推進

事業 6：誰もが利用しやすいサービスの提供

項目	取組事例	R 8 取組
① 効果的な情報提供	・ 近隣の高校・大学等への公共交通通学マップ作成 ・ 周知方法の強化 (HP、パンフレットスタンドの充実)	・ 通学マップ作成 ・ HPの改善
② 時代に対応した車両の導入 (低床バス、UDタクシー、環境配慮型車両 (EV、水素))	・ 交通事業者との協力により推進 ※R6に御前崎タクシーのUDタクシーの導入完了により、導入済みの東海タクシーとともに全域でUDタクシーの利用が可能	・ UD加算継続 ・ EVバス等の調査研究



事業 7：モビリティマネジメントの推進

項目	取組事例	R 8 取組
① 利用促進	・ 高齢者サロンでのバス、タクシーの乗り方教室の開催 ・ 公共交通に親しむ機会の創出 【産業フェア】 しずてつジャストラインの低床バスの展示 【ハッピーライド事業】 (小学生の無料バスデー) 萩間線、勝間田線を利用した空港バスツアー (親子10組参加)	・ 産業フェアへの参加 ・ ハッピーライド事業の実施

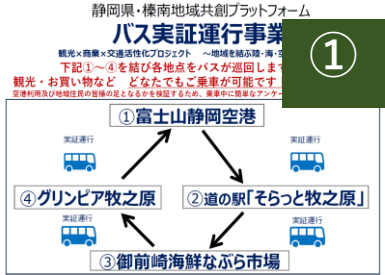


牧之原市地域公共交通計画

基本方針 3 持続可能な運行を支える他分野との連携した取組と体制強化

事業 8：観光施策と連携した取組の推進

項目	取組事例	R 8 取組
① 公共交通で移動可能な観光モデルルートの設定	各市町の賑わい施設を結ぶ観光周遊バス	R7実施の空港周辺周遊バスの検証
② 観光イベントとの連携	バス＋ウォーキング、バス＋観光ツアーなど	静岡空港・道の駅定額タクシーと観光イベントの連携
③ 静岡空港と市街地を結ぶ直通バスの実証運行	期間運行バスの実証運行（例：海水浴期間中の観光シーズン）	静岡空港・道の駅定額タクシーの通年運行



運行日およびスケジュール
1月17(土)・18(日)・24(土)・25(日)・31(土)
2月1(日)・7(土)・8(日)・11(水祝)・14(土)・15(日)

① 空港	② そらと	③ なぶら	④ グリンピア	① 空港
10:00発 →	10:10発 →	10:40発 →	11:10発 →	11:50着
12:10発 →	12:20発 →	13:20発 →	15:00発 →	15:40着
13:50発 →	14:00発 →	15:00発 →	15:50発 →	16:30着
16:00発 →	16:10発 →	16:30発 →	16:50発 →	

【問い合わせ先】 名鉄観光サービス株式会社 静岡支店 TEL 054-246-5481（平日10:00～17:00） 担当 鈴木 千恵子 TEL 054-246-5481



【静波海岸リゾート開発】 R8.2.17報道 2029年春頃の完成を予定
沿岸部への誘客に資する交通ネットワークの構築を計画内で検討



リゾート開発イメージ



公園イメージ



スケボーパークイメージ



温浴施設イメージ

牧之原市地域公共交通計画

基本方針3 持続可能な運行を支える他分野との連携した取組と体制強化

事業9：移住定住、子育て支援につながる取組の推進

項目	取組事例	R8取組
① 移住定住施策との連携	特急静岡相良線の利便性をPRするチラシ作成・配布	成人式や移住者等への配布継続
② 高校生の通学支援	通学定期券購入費補助	補助継続
③ 遠距離通学児童の通学手段確保	自主運行バス、市営バスの運行	鬼女・菅山線の効率的な運行への見直し

③ 鬼女菅山線の利用者数（R8）

人	菅山小	相良小	相良中	合計
行き	2	7	3	12
帰り	0	4	0	4

- ① R8はR7の15人と7人から12人と4人にまで減少
- ② 学年により時間割が異なるため、帰りは4人が2便に分かれて乗車



特急線PRチラシ
成人式配布



通学定期券購入
費補助 チラシ



牧之原市地域公共交通計画

基本方針3

持続可能な運行を支える他分野との連携した取組と体制強化

事業10：自動運転技術などのDX化やICTを活用した取組の推進

項目	取組事例	R 8 取組
① 自動運転車両の導入	自動運転車両の実証運行	島田市とともに、静岡空港周辺での導入可能性調査を実施予定（右のイメージ参照）
② タクシーのICT化	AIオンデマンドの調査研究	交通計画策定時の富士山型ネットワークシミュレーション調査において、AIオンデマンドの経費試算や効果を調査

事業11：市民意見を尊重する協議体制と関係者の連携強化

① 関係者との意見交換

高校、福祉系団体、企業、地域などとの意見交換

② 交通事業者との連携

運転手確保：広報まきのほら特集記事で3事業者の運転手募集を掲載

島田市と実施する導入可能性調査
（賑わい拠点をつなぐ周遊バスのイメージ）



今年度策定の地域公共交通計画において、意見交換を含めて公共交通ニーズ把握調査を実施



市の交通空白地域の追加について

(企画政策部地域振興課)

1 調査目的

- ・国では、全国市町の空白地解消の支援を推進するために、交通空白解消本部を設置し、令和7年度～令和9年度を「交通空白解消・集中対策期間」として、伴走支援や財政支援を実施する。
- ・交通空白地域解消にあたり、これまで一律の方針が示されていなかった「交通空白地域」を各自治体が設定し、報告することとなった。

2 7年度の交通空白地区の設定

- ・国では一律の定義を示さず、自治体が地域事情を勘案しての設定が可能
- ・本市では、国で整備した交通空白リストアップサポートツールを使用し、空白地を設定する
- ・ツールは、バス停と居住地 500m メッシュが設定できて、人口と面積の算出が可能

(牧之原市の設定方法)

- ① 牧之原市都市計画マスタープラン地区別構想にある 10 地区ごとに、バス停 500m 圏外の交通空白地人口を算出する。
- ② 自主運行バス・市営バスが平日 5 往復、土日祝 3 往復の勝間田地区は、①に関わらず交通空白地として算出する。
- ③ 各地区人口に対する交通空白地の人口割合が高い上位 5 地区に、乗継の利便性が低い地頭方地区を加えた 6 地区を市の交通空白地域に設定する。
- ④ 地理的に同一の菅山地区・萩間地区の 2 地区を統合し 5 地区に整理する。

		R2 国勢調査	比率算出		ツール算出	
	地区	人口 (人)	外国人 (人)	合計 (人)	空白地人口 (人)	空白割合
①	坂部	2,244	112	2,356	2,132	90.51%
②	勝間田	2,484	124	2,608	2,318	88.90%
③	菅山・萩間	5,238	260	5,498	2,593	47.16%
④	牧之原	2,512	125	2,637	965	36.60%
⑤	地頭方	4,227	210	4,437	260	5.86%
⑥	川崎・細江	15,536	773	16,309	4,179	25.62%
⑦	相良	10,529	524	11,053	1,705	15.43%
		42,770	2,127	44,897	14,152	31.52%

(R7 空白地区)

- ①坂部地区 ②勝間田地区 ③菅山・萩間地区 ④牧之原地区
⑤地頭方地区

3 8年度の交通空白地区の設定（追加）

榛原、相良両市街地は路線バスが運行しており、公共交通カバー率は、榛原で約75%、相良で85%と高い率であるが、8年度の追加では、交通空白地区人口の割合だけではなく、以下の観点を考慮して地区の追加を行う。

① 空白地人口の総数

ア 榛原市街地（静波、川崎、細江）＝4,179人（地区別1位、他地区の2倍）

イ 相良市街地（相良地区）＝1,705人（地区別5位）

② 土日祝日のバス運行本数の減少

バスが運行している地域でも、元々の運行本数が少なく、土日祝は更に運行本数が減少（平日比4割減）するため、移動に不便している可能性がある。

③ 夜間のタクシー難民の増加

路線バスの運行が終了している夜間は、タクシーが主な公共交通となるが、待機車両が少なく、特に飲食店の帰りに配車を予約しても、長時間待つか断られる、といった事情があり、飲食店関係者からは、ライドシェアの導入を含めた夜間の移動手段の確保を要望する意見が出ている。

以上、①の総数と、②③の時間的空白を理由に、全域的な移動手段の改善が求められていることから、両市街地についても交通空白地区として設定し、改善を図っていく。

（R8交通空白地区）

- ①坂部地区 ②勝間田地区
③菅山・萩間地区 ④牧之原地区
⑤地頭方地区 ⑥榛原市街地地区
⑦相良市街地地区

4 全国の状況（R8.6.11 報道）

・交通空白地区

892 市区町村 計 2,740 カ所

※1,705 市区町村が回答

（前年度 717 市区町村 計 2,057 カ所）



ライドシェア勉強会について

企画政策部地域振興課

1 公共ライドシェアについて

ライドシェアは、普通免許を持つ一般ドライバーが自家用車等を活用して人を運ぶ仕組みで、そのうち「公共ライドシェア」は、市町やNPO法人、商工会などが運行主体となる有償の旅客運送である。

	公共ライドシェア (自家用有償旅客運送)	日本版ライドシェア (自家用車活用事業)	共助版ライドシェア
運行主体	市町村、NPO法人、商工会、社会福祉法人等	タクシー事業者	地域住民、団体など
主な対象地域	交通空白地 (福祉有償運送もあり)	都市部等 ※タクシー不足の解消、イベントや観光ハイシーズンのみの活用、など	交通空白地、観光地、登下校困難な地域など
使用車両	自家用車（白ナンバー）	自家用車（白ナンバー）	自家用車（白ナンバー）
ドライバー	第2種運転免許保有者 または 第1種運転免許保有かつ大臣認定講習の受講	第2種運転免許保有 または 第1種運転免許保有 ※タクシー事業者が雇用し、タクシー運転者と同等の研修受講が要件	第1種運転免許保有
運送対価	実費の範囲内 ※タクシー運賃の8割が目安	既存のタクシー運賃と同水準または準じた価格	実費の範囲内 ※ガソリン代、車両維持費の一部、謝礼など
運輸支局	登録申請	登録申請及び許可	申請不要
導入目的	地域住民の生活の足の確保	タクシー不足の解消	地域住民の足、観光の足などさまざま
県内事例	・牧之原市（鬼女菅山線） ・小山町（OyamaRIDE） ・菊川市、島田市など（コミュニティバス）	・静岡市（清水港クルーズ船寄港）	・河津町（河津ザクライド） ・東伊豆町（ノッカルひがしいず）

公共ライドシェアの実施に当たっては、事前に地域公共交通会議における協議を経る必要があり、その結果を踏まえて静岡運輸支局への登録申請を行う必要がある。

2 夜間ライドシェアについて

令和7年12月、夜間における移動手段の確保等を目的として、夜間ライドシェアの導入に関する提言書が、市内飲食店事業者より本市に提出された。

(1) 提言書内容

- ・夜間のタクシー不足による飲食店利用者の減少⇒地域経済の停滞

- ・飲食店利用者の減少が招く人口流出やイベントの縮小⇒地域活力の低下、まち自体の衰退

(2) 商工会の動向

- ・サービス部会にて夜間ライドシェアに関する情報共有を実施
- ・飲食事業者等の需要確認のため、観光サービス部会にてアンケート実施

(3) 御前崎タクシーの現状について

- ・夜間に相良地域で待機している車両は1台のみ
- ・営業時刻は日によって異なるが、早い場合は18時19時台に終了
- ・既存タクシーとライドシェアの運行時間帯を区分することにより、運転手の勤務時間の設定が容易になる。

3 勉強会について

当市にどのような形態のライドシェアが適しているのかを含め、ライドシェアの基本的な知識から導入前後の課題等について、中部運輸局静岡運輸支局に勉強会の講師を依頼

開催日時	令和8年6月1日（月） 午後2時30分～午後4時30分
場 所	牧之原市商工会2階
内 容	・公共ライドシェア入門 ・成功している地域の事例（夜間ライドを含む） ・公共ライドシェアを実施するうえでの課題
対象者	行政、商工会、飲食店事業者、タクシー事業者等

【勉強会結果】

ライドシェアに関する知識や制度への理解を深めることができたことに加え、ライドシェアに限らず、「夜間の移動の足をどのように確保していくか」という、夜間移動の現状や課題について関係者間で認識を共有できた。

今後も、関係者間での情報共有や意見交換を継続し、地域の実情に合った持続可能な移動手段の確保について検討していく。

4 他市町事例から見る留意点等

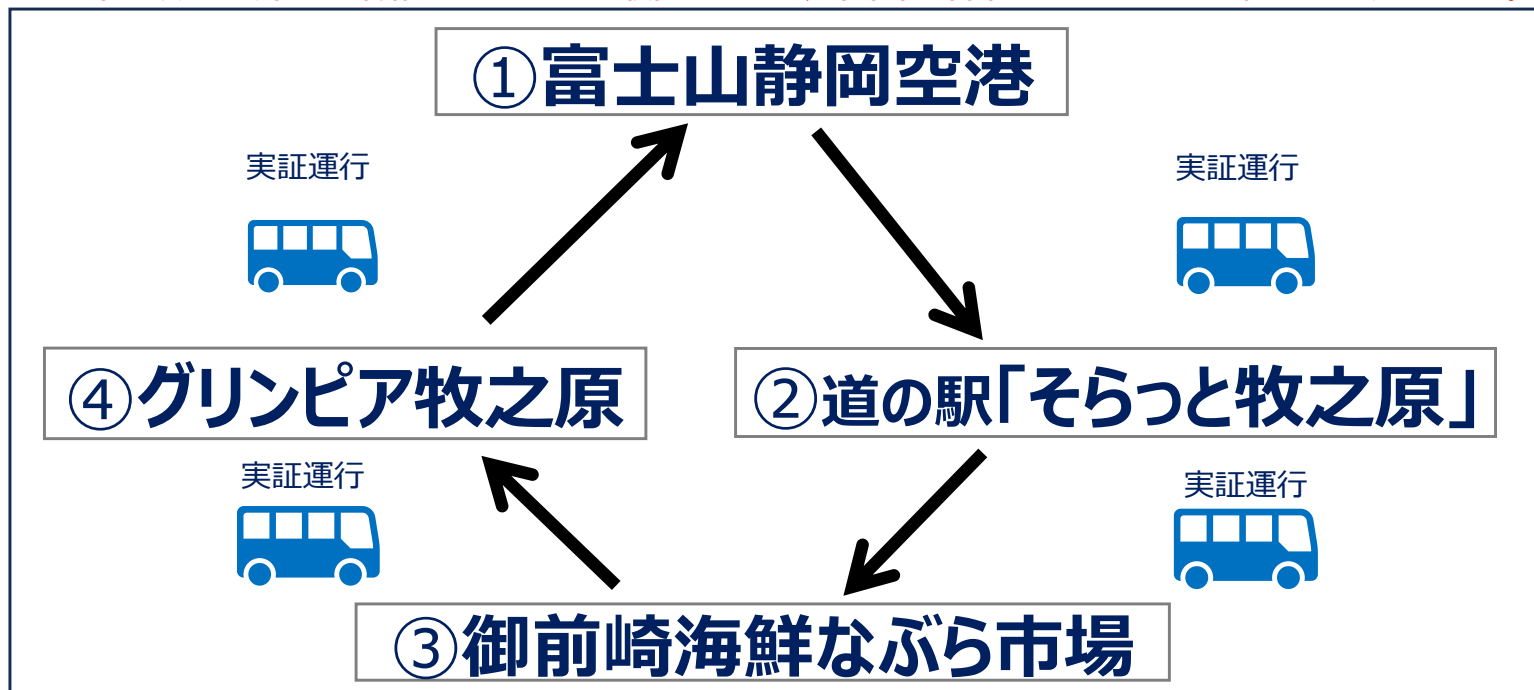
- ・当初に想定した利用者の属性や利用率などと相違が生じる場合があるため、事前の需要調査が必要
- ・バスやタクシー事業者との十分な協議及び合意形成が必要
- ・システム導入費用やランニングコストが高価

バス実証運行事業

観光×商業×交通活性化プロジェクト ～地域を結ぶ陸・海・空のネットワーク～

下記①～④を結び各地点をバスが巡回します。（乗車定員45名様）

観光・お買い物など どなたでもご乗車が可能です！！（無料：予約不要）
 空港利用及び地域住民の皆様の足となるかを検証するため、乗車中に簡単なアンケートのご協力をお願いします。



運行日およびスケジュール

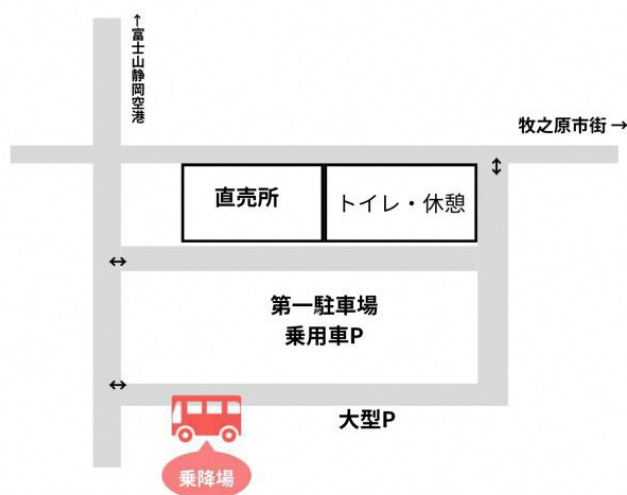
1月17(土)・18(日)・24(土)・25(日)・31(土)
 2月1(日)・7(土)・8(日)・11(水祝)・14(土)・15(日)

① 空港		② そらっと		③ なぶら		④ グリンピア		① 空港
				10：40発	→	11：10着 11：30発	→	11：50着
10：00発	→	10：10着 10：30発	→	11：10着 11：30発	→	12：00着 12：20発	→	12：40着
12：10発	→	12：20着 12：40発	→	13：20着 14：30発	→	15：00着 15：20発	→	15：40着
13：50発	→	14：00着 14：20発	→	15：00着 15：20発	→	15：50着 16：10発	→	16：30着
16：00発	→	16：10着 16：30発	→	→	→	16：50着		

【問い合わせ先】名鉄観光サービス株式会社 静岡支店 TEL 054-286-5681（平日10：00～17:00）担当 武田
 （◇各運行日当日における、運行時間及び現在走行位置等の問い合わせ 吉田観光 TEL 0548-33-0006）

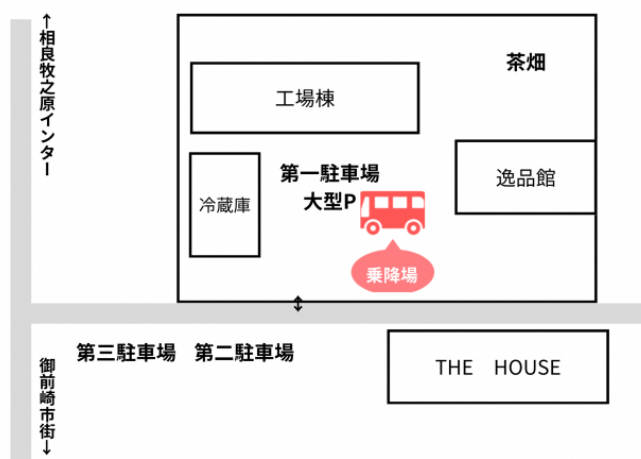
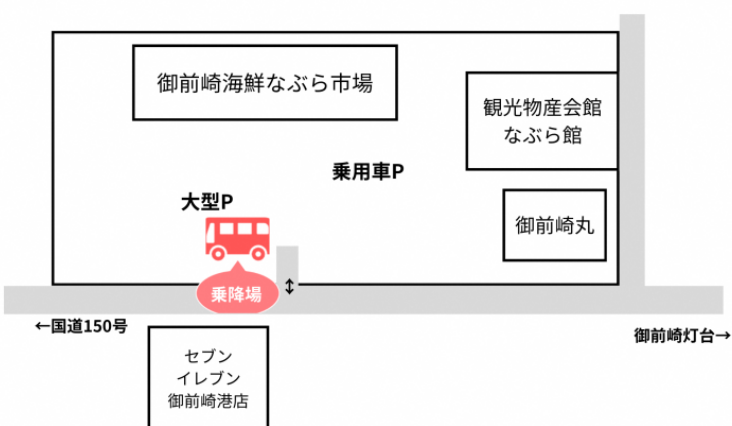
各地点のバス乗降位置図

運行当日は【榛南地区実証運行バス】と表示します。



① 富士山静岡空港

② 道の駅「そらっと牧之原」



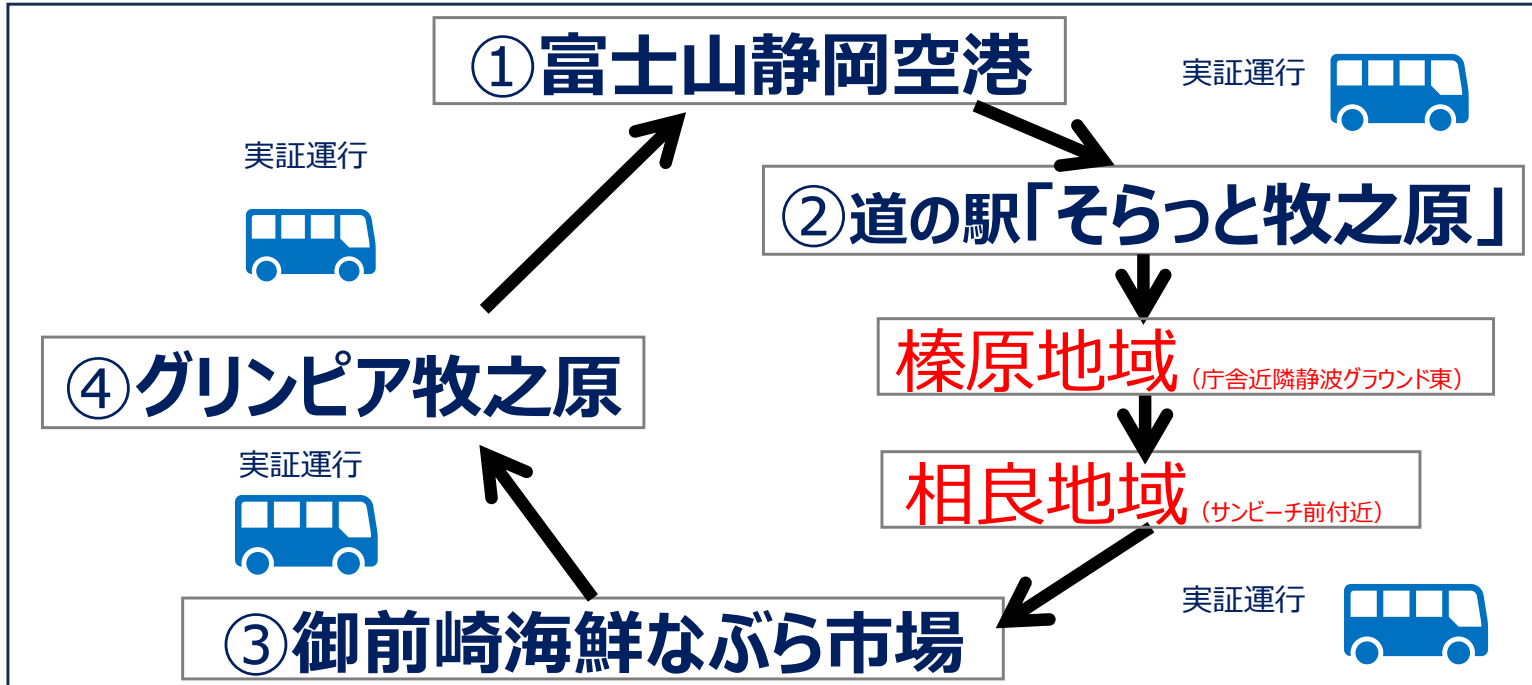
③ 御前崎海鮮なぶら市場

④ グリンピア牧之原

バス実証運行事業

観光×商業×交通活性化プロジェクト ～地域を結ぶ陸・海・空のネットワーク～

下記①～④及び牧之原市2地域を追加しました。各地点をバスが巡回します。（乗車定員45名様）
観光・お買い物など どなたでもご乗車が可能です！！（無料：予約不要）
 空港利用及び地域住民の皆様の足となるかを検証するため、乗車中に簡単なアンケートのご協力をお願いします。

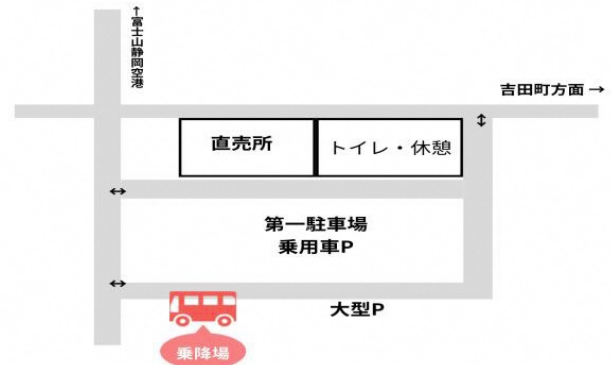


運行日およびスケジュール これまでと変更部分は赤色表示 2月 14(土)・15 (日)

① 空港		② そらっと		榛原 地域		相良 地域		③ なぶら		④ グリン ピア		① 空港
								10：40発	→	11：10着 11：30発	→	11：50 着
10：00 発	→	10：10着 10：30発	→	11：00 発	→	11：30 発	→	11：50着 12：10発	→	12：40着 13：00発	→	13：20 着
12：10 発	→	12：20着 12：40発	→	13：10 発	→	13：40 発	→	14：00着 15：10発	→	15：40着 16：00発	→	16：20 着
14：30 発	→	14：40着 15：00発	→	15：30 発	→	16：00 発	→	16：20着				

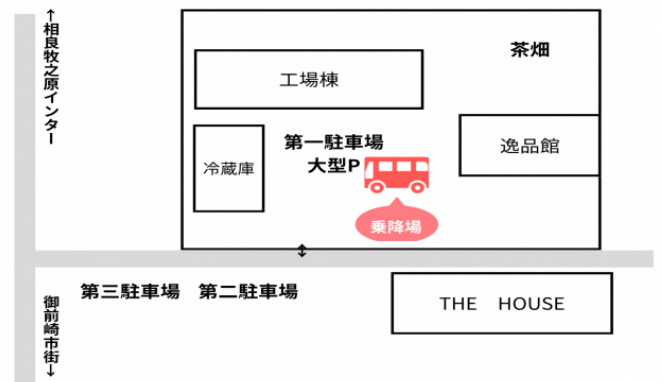
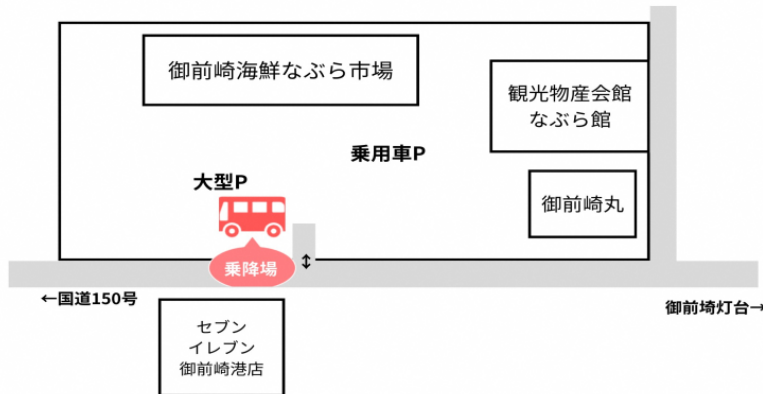
各地点のバス乗降位置図

【榛南地区実証運行バス】と表示します。



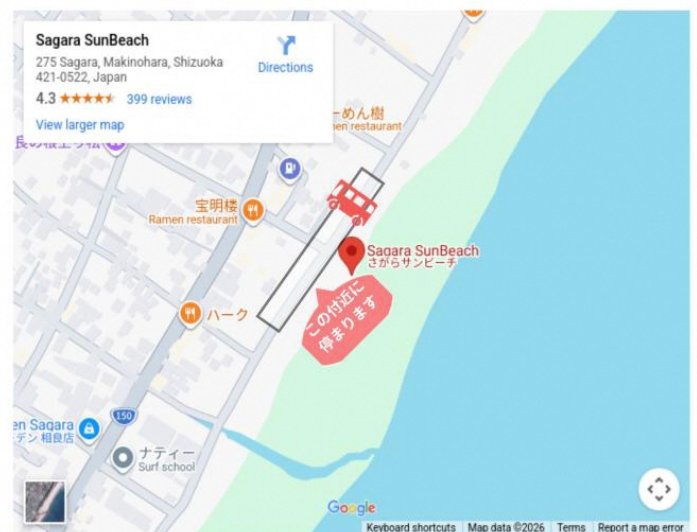
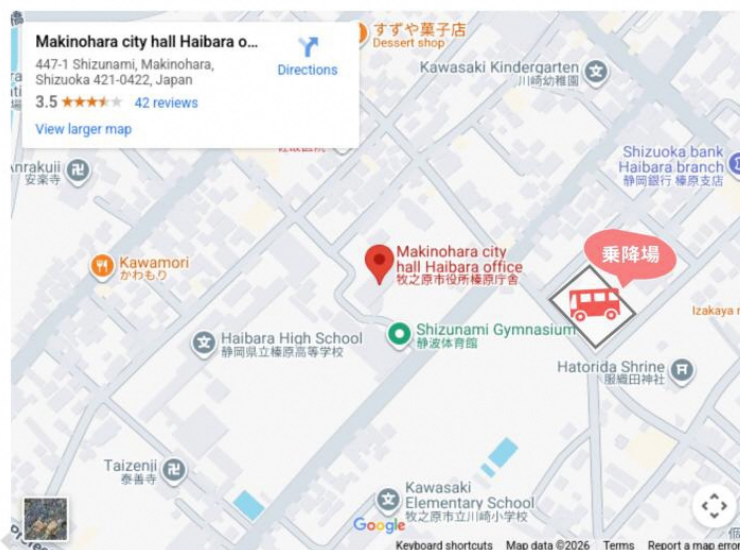
① 富士山静岡空港

② 道の駅「そらっと牧之原」



③ 御前崎海鮮なぶら市場

④ グリンピア牧之原



榛原地域 (庁舎近隣静波グラウンド東)

相良地域 (サンビーチ前付近)

榛南地域周遊バス実証運行事業 利用実績（11日間）

静岡空港出発便：利用者数142人

乗車場所	発時刻	1/17 (土)	1/18 (日)	1/24 (土)	1/25 (日)	1/31 (土)	2/1 (日)	2/7 (土)	2/8 (日)	2/11 (水)	乗車場所	発時刻	2/14 (土)	2/15 (日)
静岡空港	10:00	1			3			3		5	静岡空港	10:00		6
道の駅	10:30	1					1		2		道の駅	10:30		6
											榛原地域	11:00		10
											相良地域	11:30		13
なぶら市場	11:30		3			4					なぶら市場	12:10	2	7
グリンピア	12:20			6							グリンピア	13:00		7
静岡空港	13:50				2	11	2	12		4	静岡空港	14:30	5	8
道の駅	14:20				5	1		20		1	道の駅	15:00	4	8
なぶら市場	15:20										榛原地域	15:30		8
グリンピア	16:10									1	相良地域	16:00		4
静岡空港 (着)	16:30										なぶら市場 (着)	16:20		
合計		2	3	6	10	16	3	35	2	11			11	54

榛南地域周遊バス実証運行事業 利用実績（11日間）

なぶら市場出発便：利用者数128人

乗車場所	発時刻	1/17 (土)	1/18 (日)	1/24 (土)	1/25 (日)	1/31 (土)	2/1 (日)	2/7 (土)	2/8 (日)	2/11 (水)	乗車場所	発時刻	2/14 (土)	2/15 (日)
なぶら市場	10:40	1		1	8	12	2	29		5	なぶら市場	10:40	9	5
グリーンピア	11:30	2			9	14		6			グリーンピア	11:30	4	3
静岡空港	12:10	2				3	2			4	静岡空港	12:10		
道の駅	12:40	2	2			2					道の駅	12:40		
											榛原地域	13:10		
											相良地域	13:40		
なぶら市場	14:30	1				2				1	なぶら市場	15:10		7
グリーンピア	15:20										グリーンピア	16:00		
静岡空港	16:00										静岡空港 (着)	16:20		
道の駅	16:30													
グリーンピア (着)	16:50													
合計		8	2	1	17	33	4	35	0	10			13	15

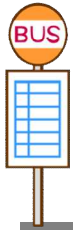


バスの妖精「ハッピー」

バスに乗って、出かけよう。



Happy Ride in Shizuoka Project



～2026小学生バス無料デー実施～

ハッピーライドin静岡プロジェクト実行委員会
(事務局：静岡県バス協会、県交通政策課)

背景と目的、目指す姿

背景

- ・少子高齢化、人口減少、モータリゼーションの普及による長期的な**乗合バス利用者の減少**
- ・**バスドライバーの高齢化**による運転手不足への危機感



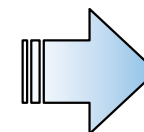
目的

- ・小学生を中心とした地域住民のバス利用の促進
- ・地域の移動手段である路線バスを将来に渡り維持するため、**社会全体で「乗って育む」意識を啓発**
- ・皆でバスに乗り合うことによる環境負荷の低減

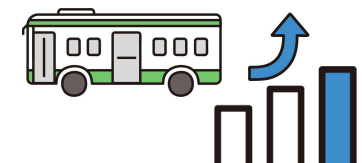


目指す姿

- ・マイカーから地域公共交通への転換（モビリティマネジメントの推進）
- ・バスが楽しい、（無料デーでなくても）バスに乗りたい小学生の増加
- ・子どもをバスに寄せたいと思う保護者の増加



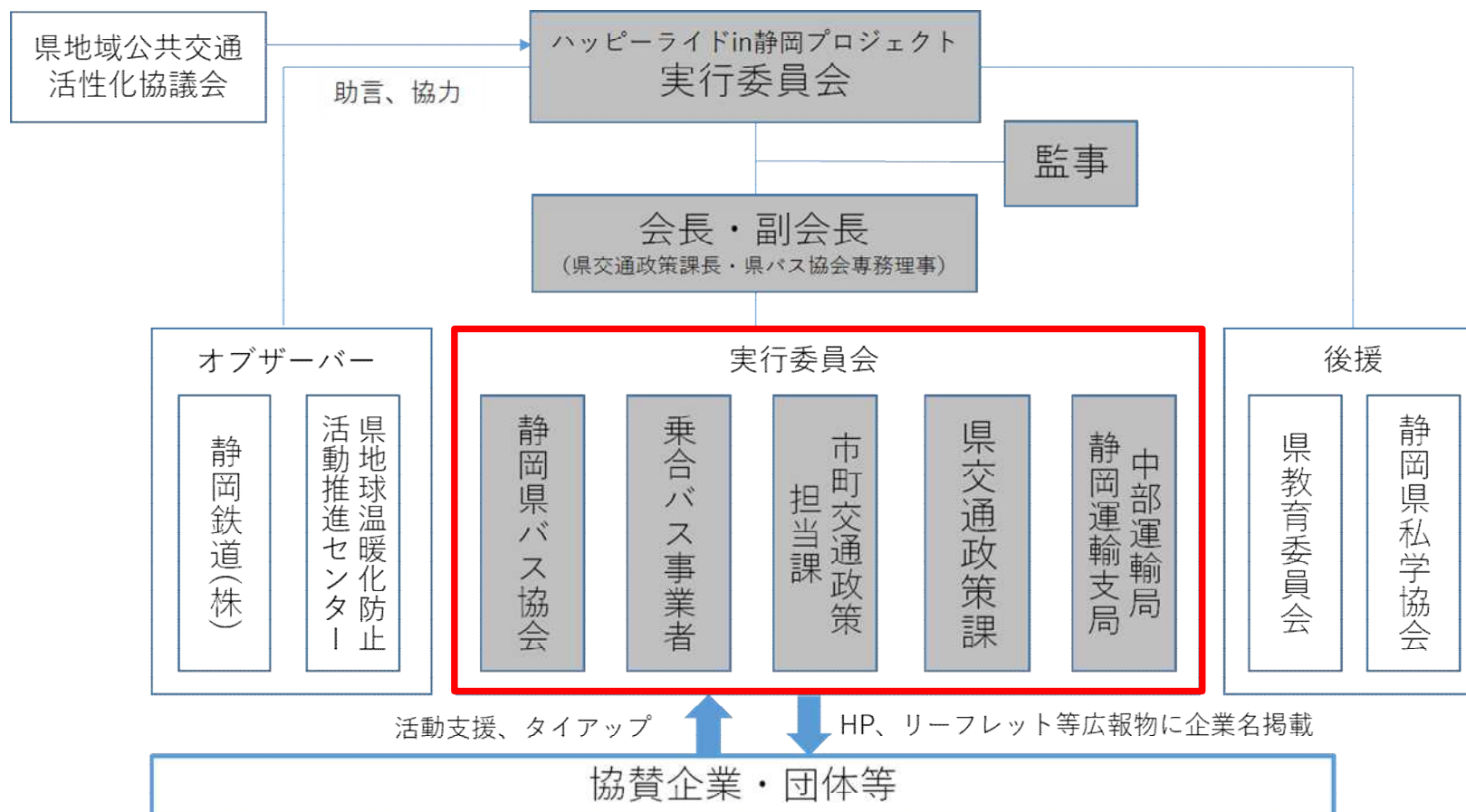
**バス利用頻度
の増加**



実施体制

概要

小学生のバス利用を促進し、バス利用者の増加につなげるため、**県内全ての小学生を対象にバス無料デーを実施**
(小学生を対象とした全県規模の実施は他にない)



これまでの取組

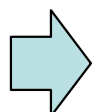
項目	R 6	R 7
対象者	静岡県内の学校に通う小学生 約 <u>173,000</u> 人 （国公立・私立小学校、特別支援学校、外国人学校の全児童）	静岡県内の学校に通う小学生 約 <u>168,000</u> 人 （同左）
実施日	令和6年12月7日（土） ～8日（日）2日間	令和7年12月13日（土） ～14日（日）2日間
対象のバス	静岡県内を運行する路線バス・コミュニティバス （土日運休路線、高速道路走行路線、空港アクセス線等を除く）	
タイアップイベント	・無料デーと合わせたイベント実施（<u>31施設</u>） ・クルポ脱炭素アクションでポイントUP ・アンケートの回答者を静岡ブルーレヴズのホームゲームに招待（抽選）	・無料デーと合わせたイベント実施（<u>44施設</u>） ・クルポ脱炭素アクションでポイントUP ・アンケートの回答者を静岡ブルーレヴズのホームゲームに招待（抽選）
その他の取組	—	・<u>特設サイト開設、バス動画制作</u> ・<u>後援名義取得（県教育委員会、静岡県私学協会）</u>
協賛企業・団体	—	・<u>協賛体制の確立</u> （静鉄グループ、（一社）静岡県自動車会議所、（一社）日本自動車販売協会連合会静岡県支部）

成果と課題（R7実施結果より）

成果

項目	内容
利用者数	・子どもの利用者は 前週から増加 （約2.5倍）
利用促進効果	・バスに乗った小学生のうち、 普段バスに乗らない（ほとんど乗らない） と回答した小学生の割合は 64%
意識、行動の変化	・昨年度のバス無料デーを知っていた小学生のうち、バスに乗ることが「増えた」と回答した小学生は、「減った」と回答した数の2倍（12%） ・昨年度のバス無料デーと比べ、バスがすきになったと回答した小学生は23%（低学年は約40%） ・バスに乗った小学生のうち、バス運転手の仕事を「もっと知りたい」という気持ちが強まった小学生は44%（低学年は59%） ・バス無料デーにバスに乗った小学生の76%がとても楽しかったと回答（低学年では80%） ・バス無料デーにバスに乗った保護者等の39%が「無料デーがなければ出かけていなかった」と回答 ・バス乗った保護者等の全員が、バス無料デーが「自分や家族が公共交通に乗るきっかけのひとつになった」と回答 ・バスに乗らなかった保護者等の94.2%が、今後バス無料デーがあったら子どもをバスに乗せたいと回答 ・保護者等の90%が、「住んでいるまちにバスがあること」は、今後もこの地域に住み続けたいと思う理由のひとつになると回答

資料：事業者アンケート、小学生アンケート、保護者アンケートより



モビリティ・マネジメントの取組としては一定の効果が見られた。意識や行動の変容は、繰り返し行うことで徐々に浸透していくものであることから、継続して取り組む必要がある

成果と課題（R7実施結果より）

課題

項目		内容
周知面		・小学生の42%が今年度のバス無料デーを知らなかったと回答（昨年度と同水準） ・情報入手経路は「学校の先生から聞いた」と「チラシで見た」が大半（保護者等も同様の傾向） ・リーフレットの持参を忘れてくる人、無料デーを知らない人がいた ・まだ児童が自主的に参加するまでには取組が定着していないものと考えられるため、学校やその他団体（小学校関連）による協力が重要
運用面	実施日	・バスに乗らなかった理由では、予定が合わなかったことが主な理由（「他に用事があったから」55%、「子どもは乗りたがったが自分に用事があったから」（17%））
	対象者	・未就学児の対応が事業者で異なる（利用者にとって分かりづらく、未就学児を連れたお出かけを躊躇うケースも） ・県外小学生の対応（区別がつきにくい、県内外に関係なく全ての小学生を対象にしてほしい等）
	その他	・乗務員のアナウンスの内容等を決めておく ・対象外の路線の周知（リーフレットへの記載やバス停への掲出など） ・整理券を取るように周知徹底してほしい ・転倒事故の危険性と防止のための説明をパンフレットに載せていただきたい

資料：事業者アンケート、小学生アンケート、保護者アンケートより

2026実施計画

項目	内容
対象者	静岡県内の学校に通う小学生※ <u>及び未就学児</u> ※国公立・私立小学校、特別支援学校、外国人学校等の全児童
実施日	<u>令和8年12月12日（土）～13日（日）、19日（土）～20（日）4日間</u>
利用方法	リーフレット（紙またはスマホ画像）をバス運転士に提示
対象のバス	静岡県内を運行する路線バス・コミュニティバス （土日運休路線、高速道路走行路線等一部対象外の路線・区間あり）
主催	ハッピーライドin静岡プロジェクト実行委員会（令和6年4月24日設置） 構成員：国、県、市町、（一社）静岡県バス協会、乗合バス事業者 事務局：静岡県バス協会、県交通政策課（組織改正によりR8.4～課名変更）
オブザーバー	静岡鉄道株式会社、静岡県地球温暖化防止活動推進センター
協賛企業・団体	静鉄グループ、（一社）静岡県自動車会議所、（一社）日本自動車販売協会連合会静岡県支部 ※協賛企業は随時募集
後援	県教育委員会、静岡県私学協会（7月頃名義取得予定）

2026実施計画

◎ 主な変更点と取組のポイント

		内容	考え方
実施日		12/12（ <u>土</u> ）～12/13（ <u>日</u> ） 12/19（ <u>土</u> ）～12/20（ <u>日</u> ） <u>4日間</u>	実施日を増やすことにより、新たな利用者増につなげる
対象者		小学生以下（ <u>幼児を含む</u> ）は <u>全員無料</u>	家族・兄弟姉妹等でのお出かけを促進する
利用方法		リーフレットをバス運転士に提示 （紙のほか <u>スマホ画面による提示</u> でも可）	スマホ画像による提示を試行的に実施
周知/ 広報	<u>タイアップ施設</u>	無料デーを早めに告知（5月～）	早期告知により、タイアップ施設によるイベント企画や広報を可能にする
	<u>学校（教職員等）</u>	- 学校、教職員向け説明ペーパーの作成 - バス動画の活用	協力学校を増やす
	<u>学外（小学校関連）</u>	（例） - スポーツ団体、学習塾、保育園、幼稚園等 - 自治会、PTAや保護者向けSNS、スーパー等	学校以外の団体に賛同・協力者を増やす

(参考)今後の無料デー定着に向けたアイデア

◎ 今後に向けたアイデア（これまでに取組があったものを含む）

区分	内容	考え方
期間中にバスを使いこなすアイデア	- 無料デーと合わせた、スタンプラリー等の企画 - 拠点ターミナル等から、バスを乗り継いで出かけるモデルコースを例示	アンケートでは、無料なのに2回しか乗らない回答者が多かった
大人の同行を促すアイデア	無料デーと合わせた、バス車内お絵描き展	アンケート結果から、同行した保護者等に対するM Mの意義も大きい
無料デーの印象を実施後も継続させるアイデア	無料デーのバス乗車体験談、バス写真コンクール、特設サイトで紹介等	アンケートでは、去年の無料デーのことをおぼえていない児童が少なくない
リーフレット	リーフレットの一部に、カードサイズの「PASS（参加賞学校の証）」画像を入れ、切り取って定期入れやネックストラップ等に入れて持ち運びできるようにする	乗降時間の短縮や乗務員の負担軽減

資料：調査会社報告「まとめと今後に向けたご助言・アイデア等」より

実施スケジュール(案)

月日	内容
4月23日	○実行委員会（第9回）の開催、実施計画の決定
5月上旬	・各学校長あて小学生バス無料デーへの協力依頼を发出 ※4/24県校長会理事会で説明済（県） ・市町教育委員会・私立学校に通知①
5月下旬～	・<u>プレスリリース①（実施日）</u>、タイアップイベントの募集 ・市町地域交通会議等での説明（県）
6月～	・<u>○実行委員会（第10回※書面協議）の開催、収支予算の承認、実施路線調査</u> ・運賃協議会での承認（市町）
9月	市町教育委員会・私立学校に通知②、バスの日（9/20）に合わせた広報
10月	特設サイト公開
11月	各学校経由で小学生に無料デーフリーパスを発送、 <u>プレスリリース②（一斉広報）</u>
12月	<u>プレスリリース③（取材依頼）</u> 、小学生バス無料デーの実施（12～13、19～20）
～3月	利用者アンケート等のとりまとめ（効果検証）、翌年度実施検討 <u>○実行委員会（第11回）の開催、成果報告等、プレスリリース④（結果公表）</u>

昨年度承認済みの
場合は省略可

県活性化協議会
報告（8月）

県活性化協議会
報告（3月）

(参考)JCOMMへのエントリー



日本モビリティ・マネジメント会議
Japanese Conference On Mobility Management

・目的

モビリティ・マネジメントが効果的に広範に推進されることを支援（年1回開催）

・主催

（一社）日本モビリティ・マネジメント会議
（国土交通省と（社）土木学会による共同開催）

・参加者

学識者、官公庁、企業・団体

・内容

自動運転技術の研究
スマートシティ構想への貢献
交通政策との連携
講演・パネル、研究発表、**ポスター展示**など

・テーマ

持続可能で人にやさしいモビリティの実現

第21回会議概要

開催日：2026年9月4日(金) - 5日(土)

会場：新潟県湯沢町

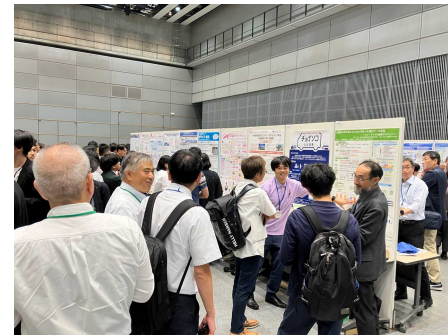
第20回（昨年）の反響



良い取組なので、当社が開催しているモビリティ・マネジメント技術講習会で事例紹介をしてほしい。【計量計画研究所】



その他、本県のイベントを参考にさせてもらいたいという意見多数！！



【ポスター発表の様子】

【結果公表】2025 静岡県小学生バス無料デー (子どもの利用は前週の約 2.5 倍、利用意識や行動に変化も)

(ハッピーライド in 静岡プロジェクト実行委員会事務局 交通基盤部交通政策課)

令和 7 年 12 月 13 日(土)～14 日(日)の 2 日間、身近な公共交通である路線バスの活用を促進するため、県内の小学生を対象にバス無料デーを実施しました。

全国初の取組となった昨年度に続く 2 回目の実施で、昨年度のバス無料デー実施前と比べ、利用者のバスへの意識や行動に変化が見られました。

1 実施概要

(1) 対象者

県内の全小学生(国公立・私立小学校、特別支援学校等含む) 約 168,000 人

(2) 対象のバス

県内を運行する路線バス、県内のコミュニティバス(一部路線・区間を除く)

(3) 利用方法

リーフレットをバス運転士に提示

(4) 主催

ハッピーライド in 静岡プロジェクト実行委員会

構成員：国土交通省静岡運輸支局、県、市町、(一社)静岡県バス協会、乗合バス事業者 13 社

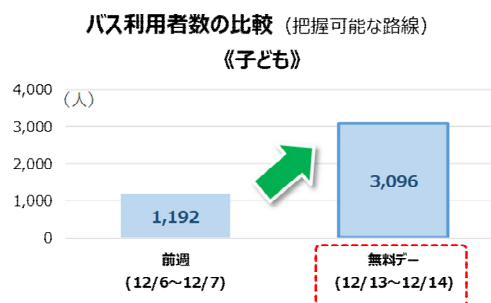
2 実施結果(まとめ)

- (1) 2 回目となる今回のバス無料デーでも、普段バスを利用しない層のバス利用が促進された。
- (2) また、初回のバス無料デー実施前との比較では、その後の意識や行動の変容について、子どもだけでなく、同行する大人にも一定の効果が認められた。
- (3) 一方で、バス無料デーを知らなかった、バスに乗らなかった小学生は多く、繰り返し実施することで、新たな需要の掘り起こしにつながるとともに、バス利用に対する意識や行動が徐々に変容していくことを考えれば、バス無料デーを毎年継続して取り組む意義があるものと考えられる。
- (4) JR 東海が「バス無料デー」に合わせて初めて実施した、特別企画乗車券の発売では、普段鉄道やバス等を利用する機会の少ない小学生に公共交通に触れる機会を提供するなど、バスをはじめとする公共交通への新たな利用促進の可能性を示した。

3 実施結果(詳細)

(1) 利用者数

- ・バス無料デーの子どもの利用者は前週と比較して増加した(約 2.5 倍)

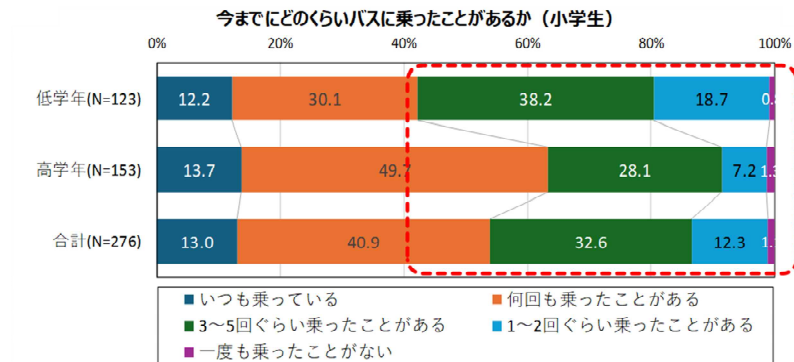


※バス事業者からの報告により無料デー当日の人数把握ができたもののみカウント

(資料：事業者アンケート)

(2) 利用促進効果

- ・無料デーにバスに乗った小学生（回答者）のうち、これまでのバス利用回数が3～5回以下の小学生が全体で46%、低学年では60%を占め、無料デーが、普段バスを利用しない小学生が、“バスの利用を体験する機会”となった

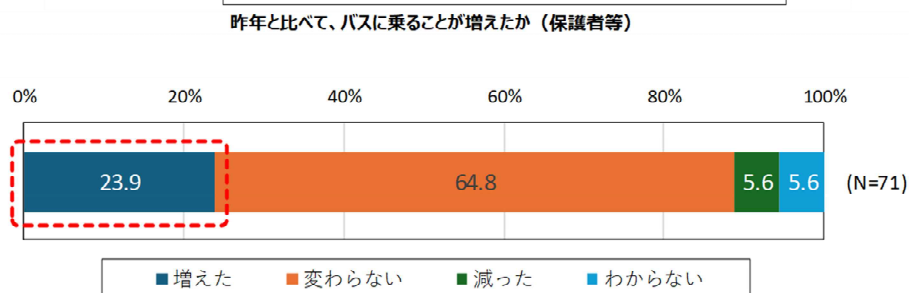
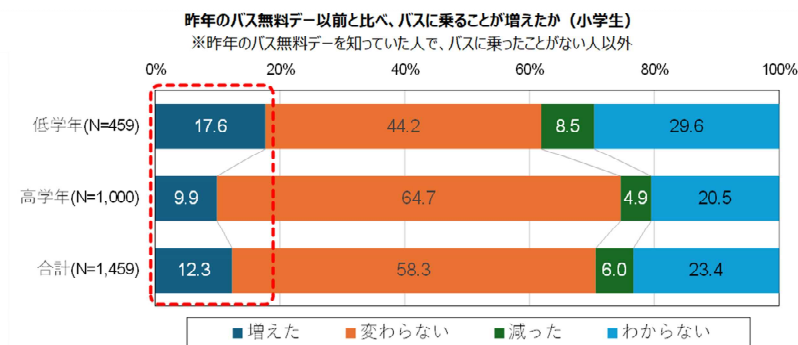


（資料：小学生アンケート）

(3) バス利用の行動・意識変化

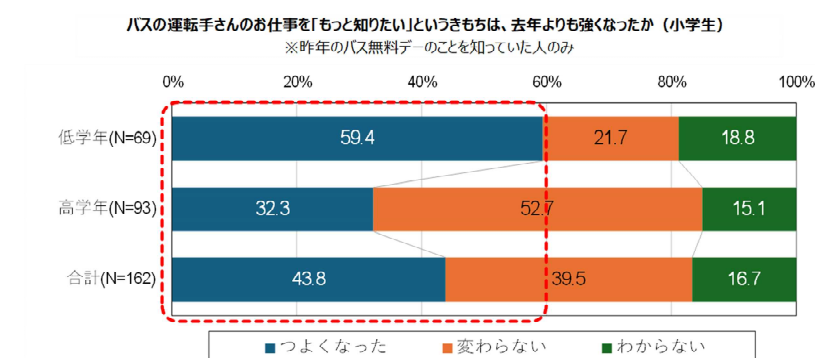
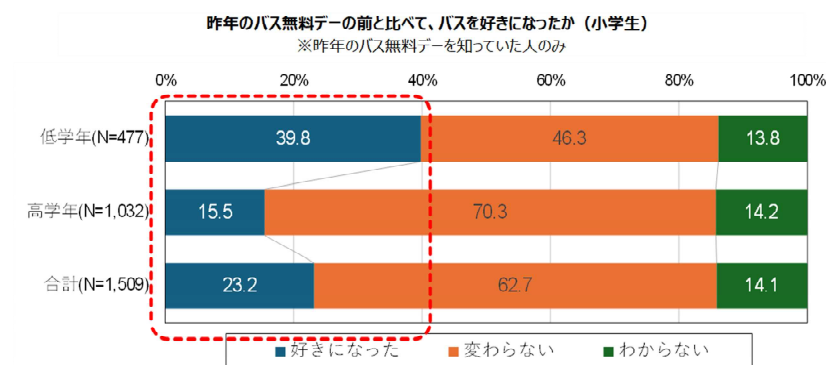
ア 行動変化

- ・バスに乗ることが「増えた」と回答した小学生は12%（「減った」6%）、保護者では「増えた」が24%（「減った」6%）で、いずれも「増えた」と回答した人が増加した



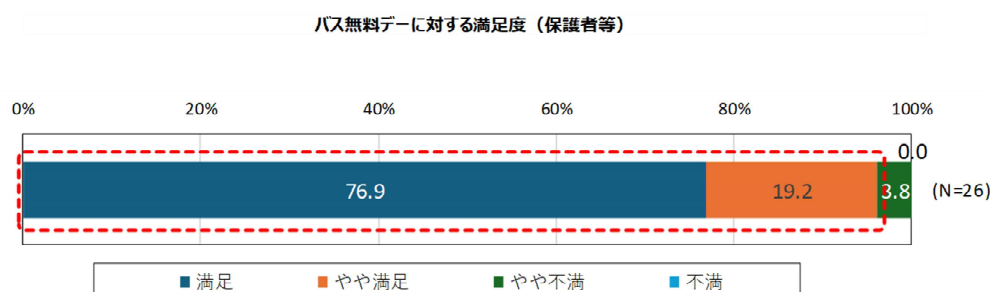
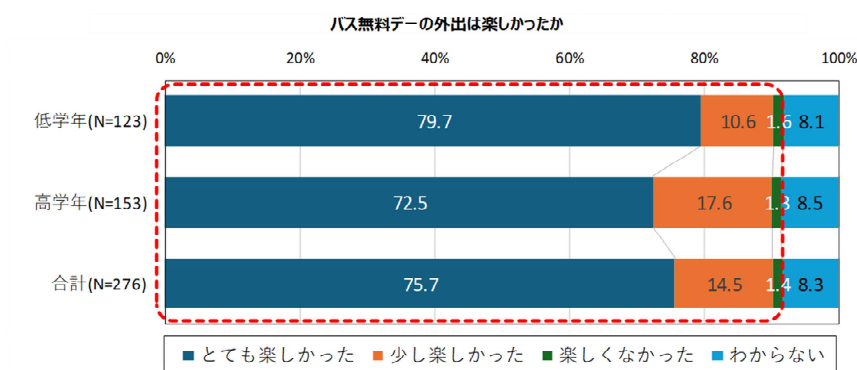
イ 意識変化

- ・昨年度の無料デー前と比べ、低学年の40%がバスを「好きになった」と回答。運転手への関心度では、低学年の60%が「バスの運転手さんのお仕事を「もっと知りたい」気持ちが強まった」と回答した ※学年別で差が大きい



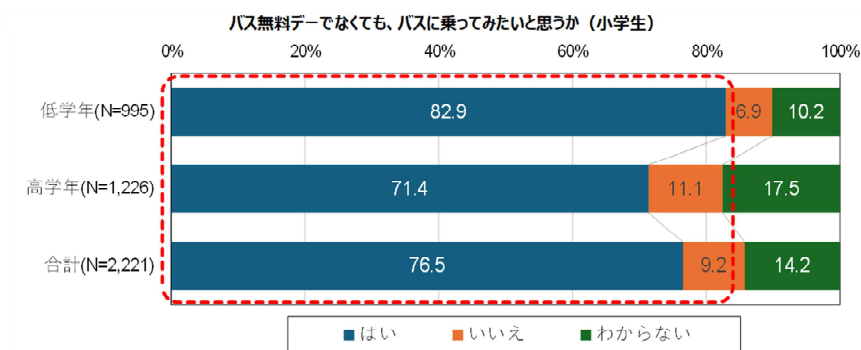
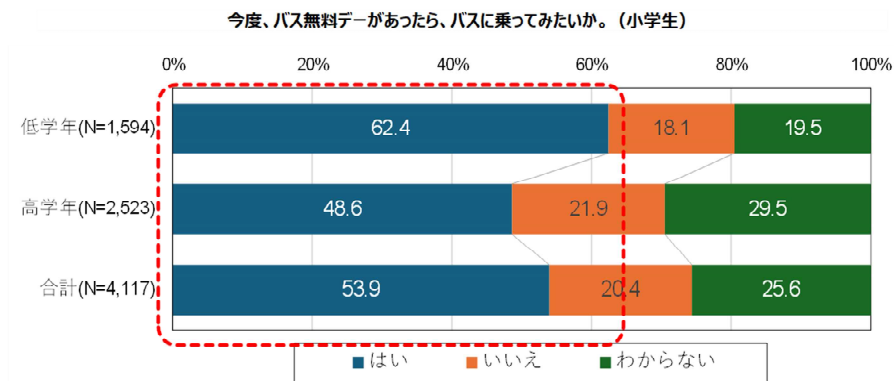
ウ 満足度等

- バス無料デーが「楽しかった」と回答した小学生は約 90%（「少し楽しかった」を含む）、保護者も「満足」「やや満足」と回答した人が 96%を占めた

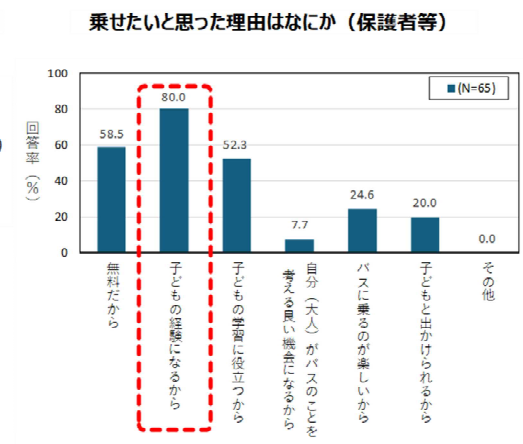
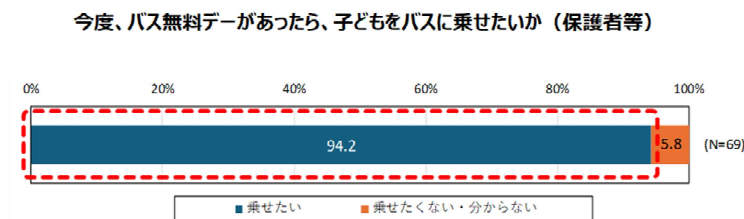


エ 今後の利用意向

- 小学生では、合計で「はい」が 54%を占め、「いいえ」の 20%を大きく上回っている
- バス無料デーでなくてもバスに乗ってみたいと思うかの質問には、合計では「はい」が 77%と高い割合を占めた

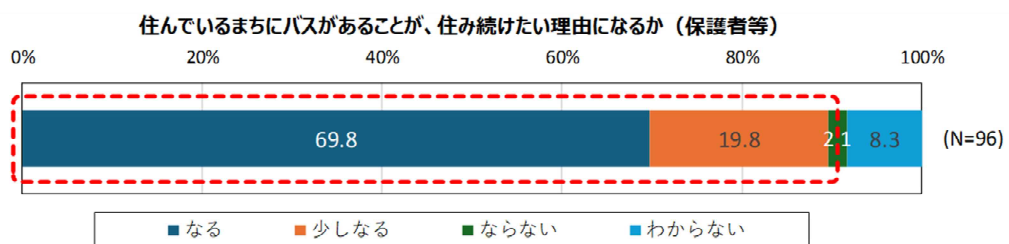


- ・保護者等では、子どもをバスに「乗せたい」が94%を占め、乗せたいと思った理由では「子どもの経験になるから」が80%で最も高かった

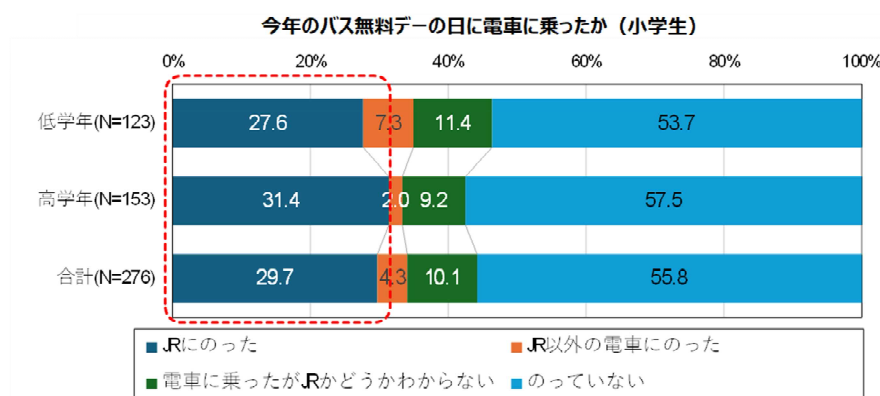


オ その他

- ・保護者等の90%が、「住んでいるまちにバスがあること」は今後もこの地域に住み続けたいと思う理由のひとつになると回答した



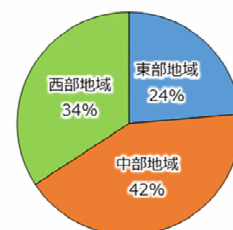
- ・バス無料デーに、「JR にのった」と回答した小学生は 30%。JR 東海によれば、「静岡県小学生バス無料デー」に合わせて発売した特別企画乗車券(※)は、2 日間で約 2,300 枚の発売があった



資料：小学生アンケート（Web）より

〈参考〉

特別企画乗車券販売実績（発売箇所別）



資料：JR東海より

※静岡県内の学校に通学する小学生を対象に、JR 線（東海道本線「熱海～豊橋」、御殿場線「沼津～国府津」、身延線「富士～甲府」）が乗り放題となる特別企画乗車券を 100 円で発売

（資料：①～⑤小学生、保護者等アンケート、JR 東海提供資料）

▼調査方法等の実施結果の詳細は、「2025 静岡県小学生バス無料デー実施結果」のページをご覧ください。

<https://www.pref.shizuoka.jp/machizukuri/1080305.html>

デマンド乗合タクシーサービス拡充事業について

企画政策部地域振興課

1 概要

- ・デマンド利用者アンケートで、運行曜を増やしてほしい旨の回答が最多。
- ・タクシー事業者からは、金曜日に予約が集中して配車に苦労している、平日の毎日運行は、配車状況から現状では不可との意見がある。

【方針】

- ・デマンド乗合タクシーが運行しておらず、比較的稼働が落ち着いている土日祝日の新規運行を実施し、土日祝日の需要把握や予約集中時間帯の分散化の効果検証を行う。

2 財源 ※国庫補助金の採択を受けて実施

(1) 補助金名

令和8年度 「『交通空白』解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト」(「交通空白」解消タイプ)

「交通空白」の課題があると自治体等が判断した地域において、その解消に向け公共ライドシェアや デマンド交通、乗合タクシー等の新たな交通サービスの導入や、医療・福祉・教育等の他分野の関係 者が連携して移動手段を支える仕組みの構築を行う事業を対象とする。

(2) 採択状況

全国 217 件（静岡県内は 15 市町 18 件が採択）

3 事業内容

①運行形態	道路運送法第4条に規定する一般旅客自動車運送事業
種 別	一般乗合旅客自動車運送事業（区域運行）
②運行期間 (予定)	令和8年8月22日（土）から令和9年1月31日（日） ※年末年始の12月29日から1月3日までは運休
③運行区域	・牧之原市内 ・吉田町の一部（榛原地域デマンド） ・御前崎市の一部（相良地域デマンド）
④旅客の範囲	市内に住所を有する者で会員登録者 ・現行デマンドの会員登録者は登録不要 ・現行デマンド以外の一般利用者は、土日祝日のみ利用可能
⑤運行日	土曜日、日曜日、祝日※年末年始を除く 運行予定日数：53日
⑥運行便数	日8便（往路、復路の区別なし）※増便の可能性あり
⑦運行時間	10：00、11：00、12：00、13：00、14：00、15：00、16：00、 17：00（10：30、11：30・・・等を加えて時間をずらす可能性あり）
⑧目的地	病院、スーパー等、公共施設（ <u>高校、運動施設、拠点バス停追加</u> ）
⑨運賃 (1乗車)	現行のデマンドと同じ（追加乗降場所も同じ運賃区分） ※付添者、小児（6歳未満）は無料 ※現行デマンドの利用対象者は、お試し乗車券、10回利用ごとの無料券、免許証返納に対する無料券利用は継続 ※一般利用者は、お試し乗車券、10回利用ごとの無料券は発行しない

⑩運行事業者	【榛原地域 東海タクシー株式会社】以下の号の乗合可 ①さかべ号、②かつまた・まきのほら号、③しずなみ・かわさき・ほそえ号 【相良地域 御前崎タクシー株式会社】以下の号の乗合可 ①すげやま・はぎま号、②じとうがた号、③さがらひがし号・にし号
⑪利用方法	
⑫予約方法	・電話、 オンライン予約 ※静岡県の「共同利用型」公共ライドシェアプラットフォームを活用予定

4 追加乗降場所と注意点

	榛原高校 根松牧之原警察 署入口(バス停)	榛原総合運動公 園ぐりんばる	吉田町IC入口(バス停) 片岡北吉田特別支援学 校(バス停)	相良高校 大沢公園(バス停)	相良総合 グラウン ド	浜岡営業 所(バス停)
さかべ号	○ 600円	○ 600円	○ 600円	○ 1,000円	○ 1,000円	×
かつまた・ まきのほら号	○ 600円	○ 600円	○ 1,000円	○ 1,000円	○ 1,000円	×
しずなみ・かわ さき・ほそえ号	○ 300円	○ 300円	×	×	○ 1,000円	×
すげやま・ はぎま号	○ 1,000円	○ 1,000円	×	○ 600円	○ 300円	×
じとうがた号	×	○ 1,000円	×	○ 600円	○ 600円	○ 600円
さがらひがし号、 にし号	×	○ 600円 ※片浜は300円	×	○ 300円	○ 300円 ※片浜は 600円	×

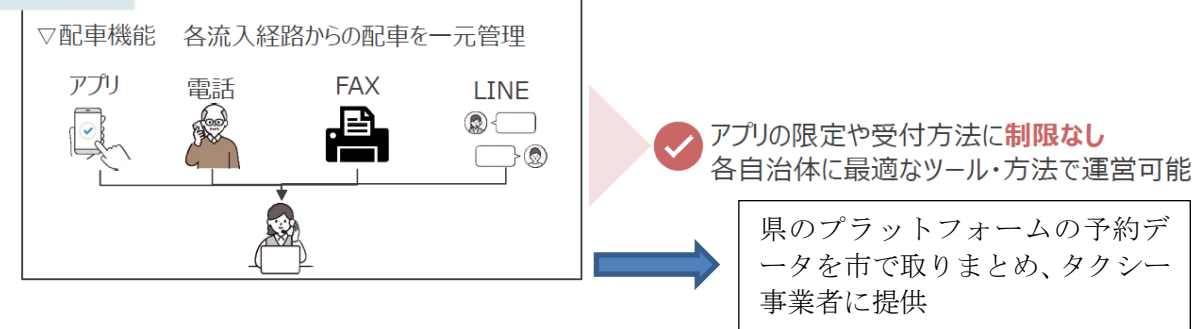
※赤枠は、特急静岡相良線への影響を考慮し、直通移動を不可とする（バス停からの乗り継ぎを促進）

5 予約方法について

静岡県では、県内市町が共同で利用できるプラットフォームの準備を進めており、運行管理や予約、配車、データ分析などを一括管理する仕組みを導入予定であるため、本事業の電話予約とオンライン予約でこのプラットフォームへ参加する予定である。これにより、タクシー事業者の土日祝日の予約受付の負担を軽減できる。

(事業イメージ)

配車機能



事業費

事業全体費用及び補助対象経費：3,240,000円

事業主体/運行主体

事業主体：牧之原市
運行委託：東海タクシー株式会社
御前崎タクシー株式会社

事業背景・目的

- 牧之原市のデマンド乗合タクシーは、平日週2～3日、地区ごとに曜日をずらして運行しているが、運行曜日の追加など、改善を求める意見が多い。
- また、75歳以上の高齢者や免許非保有者、障がい者などに利用者を限定しているが、誰でも利用可能にしてほしいとの意見がある。
- 以上から、デマンド乗合タクシーの運休日で路線バスの便数が約4割減少する土日祝日の運行、利用者を全年齢に拡大、乗降ポイントに新規の拠点バス停を追加することによるバス路線との接続など、サービスの拡充を図り、交通空白地区の解消を進める。

事業概要

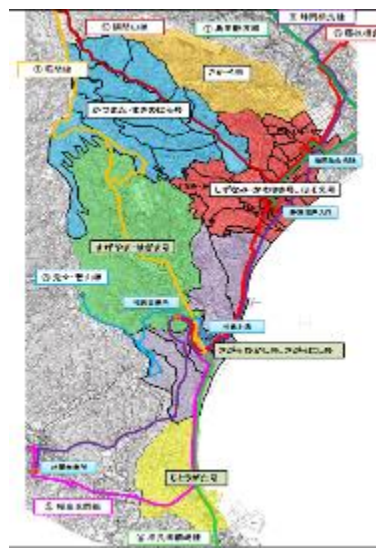
交通サービス	デマンド型乗合タクシー（サービス拡充）
運行形態	区域運行（市内全域）
法的区分	道路運送法第4条（一般乗合旅客自動車運送事業）
運行頻度	土日祝日の10:00～17:00の8便
運賃	1人300円～1,500円（ゾーン制）
実施内容	デマンド乗合タクシーが運行していない土日祝日の運行 （土日祝日運行で加えるサービス） ・年齢制限等を撤廃して、誰でも利用可能 ・一般利用を想定し、高校や拠点バス停を目的地に追加

運行期間

令和8年8月（交付決定日以降）～
令和9年1月末の土日祝日（半年間）

事業実施地域

地区名はふりがなも記入すること



「交通空白」地区名

- ① 坂部（さかべ）地区（黄土色）
- ② 勝間田（かつまた）地区（水色）
- ③ 菅山・萩間（すげやま・はぎま）地区（緑色）
- ④ 牧之原（まきのほら）地区（水色）
- ⑤ 地頭方（じとうがた）地区（黄色）
- ⑥ 榛原（はいばら）市街地（赤色）
- ⑦ 相良（さがら）市街地地区（紫色）

※土日祝日の運行便数が少ないバス路線、曜日と対象を限定したデマンド乗合タクシー、台数が少なく安定した利用ができないタクシーなど、交通ネットワークが脆弱であり、集落が点在していることから、市内全域を交通空白地域としている。

今回の運行では、市内全域を対象に、デマンド乗合タクシーのサービス拡充を図る。

事業イメージ



【サービス拡充事業】

運行曜日 土日祝日（8月～1月 約60日）
利用者 誰でも利用可能
目的地 現行デマンド：病院、スーパー、公共施設
拡充追加：高校、体育施設、拠点バス停

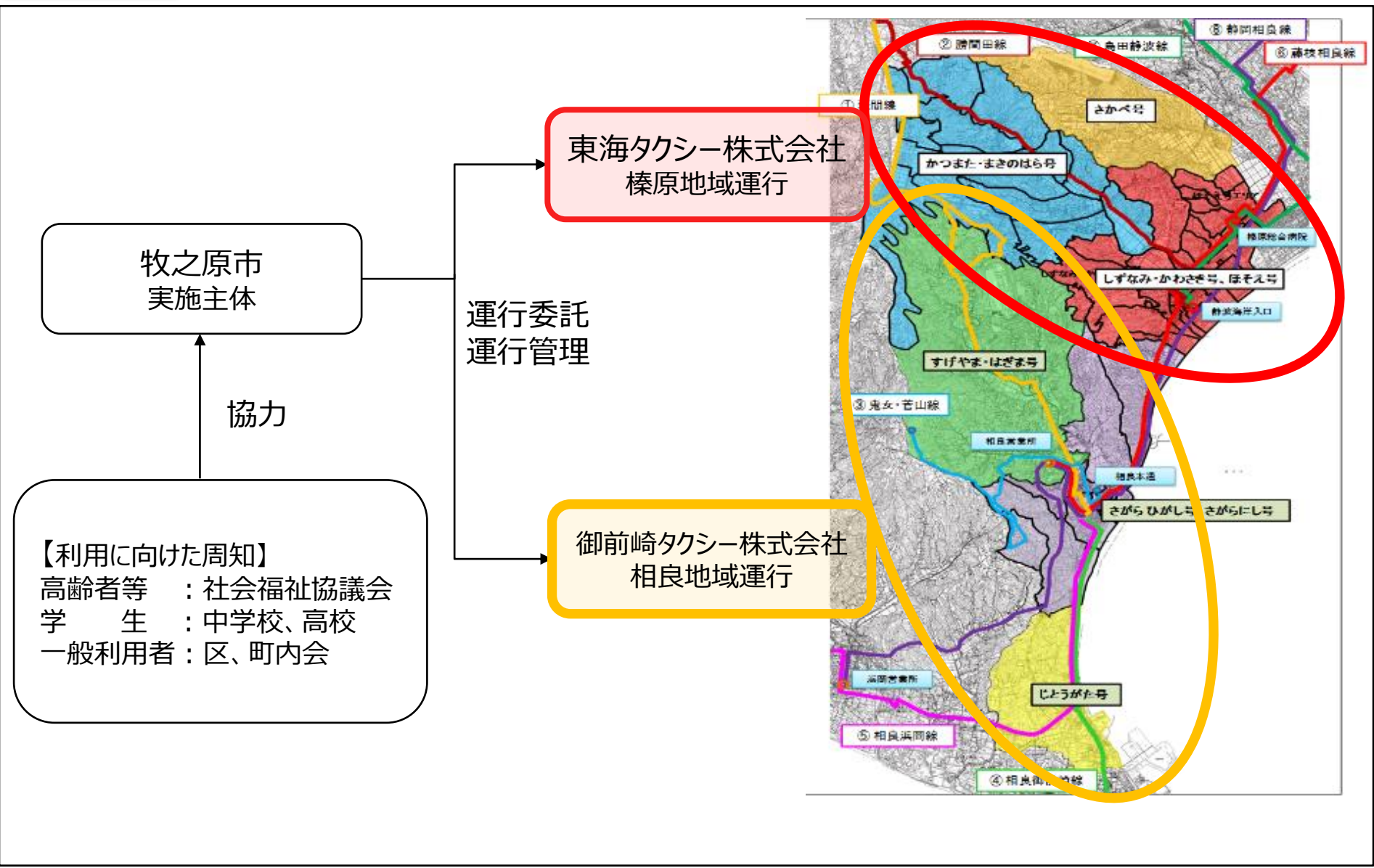
見込まれる事業効果

■ 拠点バス停への接続がバスの利用促進にもつながり、バス利用者数も増加

【定性・定量効果】

- 利用者数は、6か月間60日の運行で、900人を見込む。
- 【「交通空白」への効果】
- 当該エリアの時間的、人的な「交通空白」解消が進む

事業実施体制



OM mobi.

AIで始める新たなChallenge!

AIオンデマンド交通の実証運行の開始!

運行開始

10/1

START



市では、10月1日(水)からAIオンデマンド交通サービス「OM mobi.(オンモビ)」の実証運行を開始します。「オンデマンド」とは「必要に応じて」という意味で、AIオンデマンド交通は、電話やスマートフォンのアプリで予約すると、AI(人工知能)が最適なルート进行调整して、希望する場所の近くまで乗車できる新しい交通サービスです。複数の利用者との乗り合いになるため、効率よく、環境にもやさしい運行ができます。

今まで自主運行バスを利用されていた方も、新しい交通サービスを体験してみたい方も、この機会にぜひご利用ください。

AIオンデマンド交通サービス講座のご案内

本サービスの利用が不安な方を対象に、次の日程で、AIオンデマンド交通サービス講座(サービス概要・予約方法の紹介、アプリの登録支援)を実施します。この機会にぜひご参加ください!

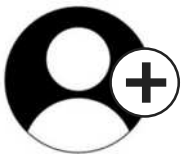
持 ち 物	筆記用具・個人のスマートフォン(希望者のみ)
定 員	毎回20名 応募は、先着順となります。
応募期間	9月24日(水)から各回の開催1週間前まで 【例】①の場合は10月10日(金)まで
応募方法	下記のいずれかの方法で、お申し込みください。 ■ 電話:0570-02-3503 ■ オンライン:左記の二次元コードより申込み ※ 当日は、主催者が用意したスマートフォン もしくは個人のスマートフォン(希望者のみ) のどちらでも利用できます。



No	日 付	会 場
①	10月17日(金)14時-16時	御前崎市役所302会議室
②	10月24日(金)14時-16時	御前崎地区センター2階大研修室
③	11月14日(金)14時-16時	御前崎地区センター2階小研修室
④	11月28日(金)14時-16時	御前崎市役所302会議室
⑤	12月12日(金)14時-16時	御前崎地区センター2階小研修室
⑥	12月19日(金)14時-16時	御前崎市役所301会議室
⑦	1月23日(金)14時-16時	御前崎市役所302会議室

サービスの利用イメージ

① ユーザー登録



初回予約のみ、ユーザー情報を登録します。
※電話とスマートフォンアプリのどちらからでも登録できます。

② 乗車予約



コールセンターへの電話またはアプリから配車を予約します。
※利用時間の7日前~1時間前まで予約可能です。
※コールセンターの開設時間は運行日の午前8時から午後5時までです。

③ 乗車



予定時刻に指定の停留所へ行き、乗車します。
※複数人での乗り合いになる場合があります。
※アプリ予約の場合、乗車30分前に乗り合いに適した停留所が案内されます。

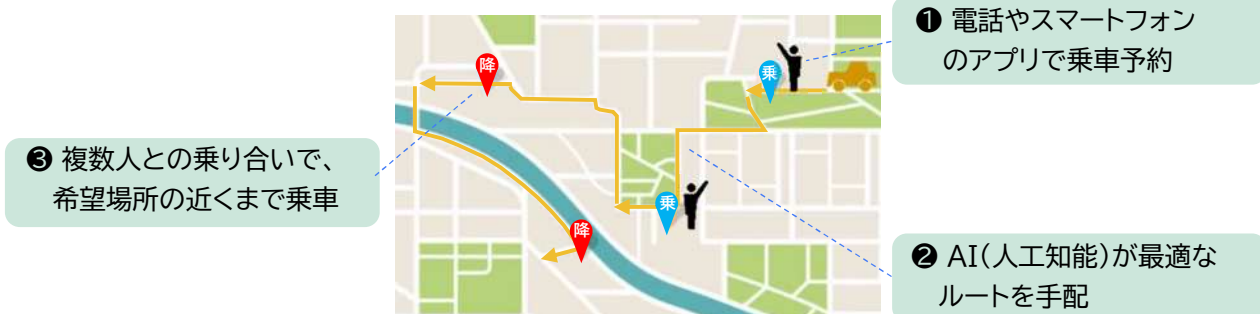
④ 支払い



乗車時の現金払いまたはアプリ内決済で支払います。

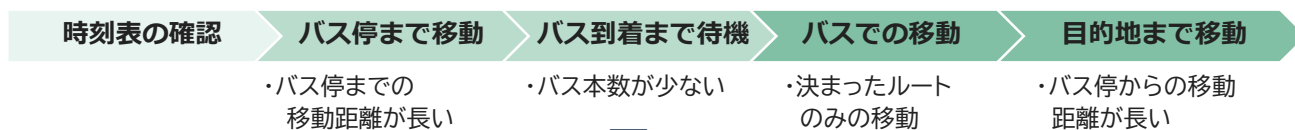


1. AIオンデマンド交通の利用イメージ

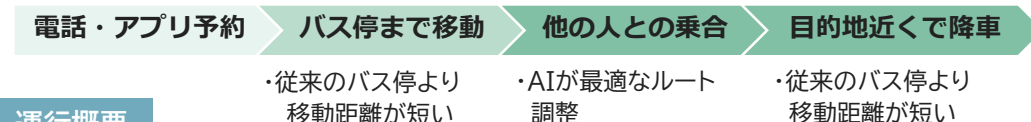


2. AIオンデマンド交通で何が変わる？

【実証前: 自主運行バスの利用】



【実証時: AIオンデマンド交通の利用】



3. 運行概要

運行エリア	市内5地区(池新田、佐倉、比木、御前崎、白羽)
運行日	毎日【平日】午前6時～午後8時【土日祝(年末年始も含む)】午前9時から午後5時
支払方法	現金、クレジットカード(アプリのみ)、乗車クレジット ▶定期券の販売はありません。代替手段として、乗車クレジット(アプリへの割引チャージ方式: 下記の割引情報を参照)をご利用ください。
予約方法	・コールセンターに電話をかけて予約 ・スマートフォンアプリで予約
運賃・停留所	運賃(割引制度含む)や停留所などの詳細は、市ホームページをご参照ください。

運賃情報

距離(直線距離)	運賃
3km未満	200円
3km以上6km未満	300円
6km以上9km未満	400円
9km以上12km未満	500円
12km以上	700円

割引情報

対象など	内容
乗車クレジット(※)	2,500円分(販売額2,000円) 7,000円分(販売額5,000円) 10,000円分(販売額6,000円)
高齢者(75歳以上)	定額200円
6歳以上12歳未満 福祉割引(障がい者手帳 などをお持ちの方)	半額
6歳未満	無料

※乗車クレジットは、割引チャージする電子マネーです。電話予約・アプリ予約の両方で利用でき、通常運賃よりも、お得に利用できます。「アプリ」もしくは「市役所窓口(企画政策課)」で購入できます。

※割引が重複する場合は、いずれか一つの割引(安い方)が適用になります。また予約後に、割引の適用はできません。

4. サービス利用にあたる注意点

- ・本サービスは予約制のため、配車状況次第で、希望時間にご利用いただけない場合があります。
- ・乗車中に、停留所の変更はできません。また途中下車はできません。
- ・運行開始・終了時間は、車両が営業所等を発着する時間です。乗車ができる時間とは異なるため、ご注意ください。